

第25期 スマート・クルーズ・アカデミー 2025年度第2弾

研修クルーズ 2025 第1弾 <沖縄⇒石垣島⇒基隆(台北)⇒宮古島⇒沖縄>



4泊5日「MSC ベリッシマ」
2026/1/7-11

スマート・クルーズ・アカデミー & 全国クルーズ活性化会議「研修クルーズ」共同企画



スマート・クルーズ・アカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

スケジュール

日付	寄港地	入港	出港
1月7日(水)	那覇 ＜観光オススメ＞ 首里城、識名園、国際通り、那覇市伝統工芸館	-	19:00
1月8日(木)	石垣島 ＜観光オススメ＞ 石垣市立八重山博物館、竹富島、川平湾、パンナ公園	9:00	19:00
1月9日(金)	基隆(台湾) ＜観光オススメ＞ 潮境公園、中正公園、基隆海洋廣場、八斗子車站	7:00	18:00
1月10日(土)	宮古島 ＜観光オススメ＞ 伊良部大橋、砂山ビーチ、与那覇前浜ビーチ、下地島	8:00	18:00
1月11日(日)	那覇 ＜観光オススメ＞ 首里城、識名園、国際通り、那覇市伝統工芸館	7:00	-

全体スケジュール

スマートクルーズアカデミー@MSC Bellissimaの詳細スケジュール					
No.	Date	寄港地	Time	スケジュール	会場(予定)
1	1月7日 (水)	那覇	14:00	集合(第2クルーズターミナル)	第2クルーズバース
			随時	チェックイン	
			15:00	乗船説明会(日本語)(参加自由:開催未定)	シアター
			16:30	避難訓練(船内新聞等で時間確認!変更可能性あり)	乗船後、各自場所を確認
			17:00	★学生&自治体 意見交換会	スカイラウンジ(デッキ18)
			17:30	★WELCOME MEETING(自己紹介) ★スポーツ・交流会	Sportplex(デッキ16)
			19:00	出港(那覇港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更可能性あり)	レストラン
			22:15	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	サンシャインパーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
2	1月8日 (木)	石垣島	7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	デッキ
			朝	朝食(各自)	レストラン
			9:00	石垣港入港	デッキ
			10:00	★石垣島 石垣港湾の説明(港湾事務所長)	スカイラウンジ
				寄港地視察・自由行動	
			17:00	★研修・アカデミーコラボプレゼンテーション	ビジネスセンター (レセプション左横の扉)
			19:00		
			19:00	出港(石垣港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			20:15	キャプテン&オフィサープレゼンテーション(フォーマルであれば)	プロムナード
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ショー&パーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
3	1月9日 (金)	基隆	7:00	基隆港入港	デッキ
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	デッキ
			朝	朝食(各自)	レストラン
			10:00	★ターミナル視察(研修クルーズのみ:学生は参加不要)	ターミナル
				寄港地視察・自由行動	
			18:00	出港(基隆港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ホワイトパーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
4	1月10日 (土)	宮古島	8:00	宮古島港入港	デッキ
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	
			朝	朝食(各自)	レストラン
				★宮古島 平良港湾の説明(港湾事務所長)	スカイラウンジ
				寄港地視察・自由行動	
			18:00	出港(宮古島港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ショー&パーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
5	1月11日 (日)	那覇	7:00	入港(那覇入港シーン見学)	
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	
			朝	朝食(各自)	デッキ
			8:30	★SCAおよび研修クルーズ体験報告	スカイラウンジ(貸し切り無)
			適宜	下船後解散 帰路	

スマート・クルーズ・アカデミー参加者名簿

整理 番号		大学名	所属	学年	氏名	フリガナ	プレゼン ター	交流 会 チーム
1	1	大阪大学	国際公共政策	教員	赤井 伸郎	アカイ ノブオ	ー	ー
2	2	兵庫県立大学	社会科学部研究科	教員	橋本 浩幸	ハシモト ヒロユキ	ー	ー
3	3	中京大学	経済学部	教員	齊藤 由里恵	サイトウ ユリエ	ー	ー
4	4	札幌大学	経済学部	教員	武者 加苗	ムシャ カナエ	ー	ー
5	5	創価大学	経済学部	教員	安武 妙子	ヤスタケ タエコ	ー	ー
6	6	創価大学	ー	関係者	安武 壽美	ヤスタケ スミ	ー	ー
7	7	創価大学	ー	関係者	安武 勇一	ヤスタケ ユウイチ	ー	ー
8	8	SAPジャパン株式会社		関係者	岡倉 諒介	オカクラ リョウスケ	ー	ー
9	9	NECソリューションイノベータ株式会社		関係者	塩沢 暢章	シオザワ ノブアキ	ー	ー
10	1	札幌大学大学院	地域・文化科学研究科	M2	高橋 海渚	タカハシ カイト	東京港	C
11	2	札幌大学	経済学部	4	中嶋 しずく	ナカジマ シズク	清水港	E
12	3	釧路公立大学	経済学部	3	太田 康喜	オオタ コウキ	清水港	F
13	4	創価大学	経済学部	4	LE THI DUYEN	レ ティ ズエン	堺泉北 港・大阪	C
14	5	創価大学	経済学部	4	OAK SOE KHANT	オッ ソウ カン	堺泉北 港・大阪	D
15	6	中京大学	経済学部	4	近藤 大成	コンドウ タイセイ	広島港	A
16	7	中京大学	経済学部	4	岡田 啓聖	オカダ ヒロト	境港	B
17	8	中京大学	経済学部	4	加納 大地	カノウ ダイチ	下関港	D
18	9	中京大学	経済学部	4	長屋 裕樹	ナガヤ ヒロキ	北九州港	E
19	10	中京大学	経済学部	4	佐川 美優	サガワ ミユウ	広島港	B
20	11	中京大学	経済学部	4	伊藤 瑞莉	イトウ タマリ	境港	C
21	12	中京大学	経済学部	4	佐藤 愛羽	サトウ アイハ	下関港	G
22	13	中京大学	経済学部	4	横山 葵	ヨコヤマ アオイ	北九州港	A
23	14	中京大学	経済学部	4	矢野 紫乃音	ヤノ シノン	八代港	G
24	15	中京大学	経済学部	4	古澤 優月	フルザワ ユツキ	八代港	F
25	16	兵庫県立大学	国際商経学部	2	松岡 瑚々那	マツオカ ココナ	神戸港	A
26	17	兵庫県立大学	国際商経学部	2	濱 涼雅	ハマ リョウカ	神戸港	B

全国クルーズ活性化会議研修クルーズ参加者名簿・チーム

整理 番号	主な港名	団体名	部署名	役職名	氏名	フリガナ
1	東京港	東京都	港湾局港湾経営部 振興課	課長代理	今村 春翔	イマムラ ハルカ
2	東京港	東京都	港湾局港湾経営部 振興課	主事	保坂 凛侑	ホサカ リュ
3	清水港	静岡県	港湾整備課	主任	中谷 成希	ナカタニ シゲキ
4	清水港	静岡県	港湾振興課	課長代理	山崎 友寛	ヤマザキ トモヒロ
5	清水港	静岡県清水港 管理局	企画整備課	主査	横山 友昭	ヨコヤマ トモアキ
6	清水港	静岡県清水港 管理局	企画整備課	主事	芦澤 俊祐	アシザワ シュンスケ
7	清水港	静岡市	清水みなと振興課	主幹兼係長	中里 道夫	ナカザト ミチオ
8	堺泉北港	大阪府	振興課利用促進担 当	係員	小林 加奈	コバヤシ カナ
9	大阪港	大阪市	事業戦略課	係員	橋村 玲奈	ハシムラ レナ
10	神戸港	(一財)神戸観 光局	港湾振興部客船プ ローション課	課長補佐	岡山 明義	オカヤマ アキヨシ
11	神戸港	(一財)神戸観 光局	港湾振興部客船プ ローション課	課長補佐(旅 客ターミナル 事務所長)	下浦 卓	シモウラ スグル
12	広島港	広島県	港湾振興課	主事	宮地 里奈	ミヤチ リナ
13	境港	境港管理組合	総務課	参事	田中 之康	タナカ ユキヤス
14	下関港	下関市	港湾局振興課	主任	吉川 省吾	ヨシカワ ショウゴ
15	八代港	八代市	経済文化交流部	次長	名里 健吾	ナザト ケンゴ
16	八代港	八代市	経済文化交流部 港湾・クルーズ振 興課	係長	島田 義信	シマダ ヨシノブ
17	北九州港	北九州市	港湾空港局クル ーズ・交流課	係員	塚原 寛子	ツカバラ ヒロコ
18	八代港	熊本県	観光振興課	主任主事	古閑 基予子	コガ キヨコ

スマートクルーズアカデミー プレゼンテーションチーム

1	東京港 東京港	東京チーム	札幌大学大学院	地域・文化学 研究科	M2	高橋 海渚	タカハシ カイト
2	清水港	清水チーム	札幌大学	経済学部	4	中嶋 しずく	ナカジマ シズク
	清水港		釧路公立大学	経済学部	3	太田 康喜	オオタ コウキ
	清水港						
	清水港						
3	堺泉北港 大阪港	大阪チーム	創価大学	経済学部	4	LE THI DUYEN	レ テイ ズエン
			創価大学	経済学部	4	OAK SOE KHANT	オッ ソウ カン
4	神戸港 神戸港	神戸チーム	兵庫県立大学	国際商経学部	2	松岡 瑚々那	マツオカ ココナ
			兵庫県立大学	国際商経学部	2	瀨 涼雅	ハマ リョウカ
5	広島港	広島チーム	中京大学	経済学部	4	近藤 大成	コンドウ タイセイ
			中京大学	経済学部	4	佐川 美優	サガワ ミユウ
6	境港	境港チーム	中京大学	経済学部	4	岡田 啓聖	オカダ ヒロト
			中京大学	経済学部	4	伊藤 瑞莉	イトウ タマリ
7	下関港	下関チーム	中京大学	経済学部	4	加納 大地	カノウ ダイチ
			中京大学	経済学部	4	佐藤 愛羽	サトウ アイハ
8	八代港 八代港 八代港	八代チーム	中京大学	経済学部	4	矢野 紫乃音	ヤノ シノン
			中京大学	経済学部	4	古澤 優月	フルザワ ユツキ
9	北九州港	北九州チーム	中京大学	経済学部	4	長屋 裕樹	ナガヤ ヒロキ
			中京大学	経済学部	4	横山 葵	ヨコヤマ アオイ

スポーツ・交流会チーム分け

	※ 太字は社会人、細字は学生	
A	東京港	今村 春翔
	清水港	中谷 成希
	中京大学	横山 葵
	中京大学	近藤 大成
	兵庫県立大学	松岡 瑚々那
B	堺泉北港	小林 加奈
	八代港	名里 健吾
	兵庫県立大学	濱 涼雅
	中京大学	佐川 美優
	中京大学	岡田 啓聖
C	神戸港	岡山 明義
	北九州港	塚原 寛子
	創価大学	LE THI DUYEN
	札幌大学大学院	高橋 海渚
	中京大学	伊藤 瑞莉
D	清水港	山崎 友寛
	東京港	保坂 凜侑
	広島港	宮地 里奈
	創価大学	OAK SOE KHANT
	中京大学	加納 大地
E	清水港	横山 友昭
	大阪港	橋村 玲奈
	神戸港	下浦 卓
	札幌大学	中嶋 しずく
	中京大学	長屋 裕樹
F	清水港	芦澤 俊祐
	境港	田中 之康
	八代港	古閑 基予子
	釧路公立大学	太田 康喜
	中京大学	古澤 優月
G	清水港	中里 道夫
	下関港	吉川 省吾
	八代港	島田 義信
	中京大学	矢野 紫乃音
	中京大学	佐藤 愛羽

研修クルーズ・アカデミーコラボプレゼンテーション

学生 SCA タイトル:「観光地としての地域の魅力と発信方法」

港湾研修クルーズタイトル「担当港湾の整備状況や取り組み」

日時:1月8日(石垣島)17時から19時

第一部

17:00-18:30

学生:「港をテーマにした地域紹介方法の現況と改善案」

- 1) 担当港湾地域の名産品・歴史・景観・文化などを1つ選び、
- 2) それとその地域がどのように紹介されているか(言葉、写真、デザインなど)を調べて、そこから受け取れる印象を整理し、
- 3) より良く伝えるための工夫/改善案を提示する。

・各港湾:「担当港湾の整備状況や取り組み」

基本構成

(1) 港の概要、(2) 寄港状況、(3) 取り組み、(4) 課題

第二部

18:30-19:00

第3部「クルーズ客船誘致の今後の展望」

パネル討論+質疑

by 各自治体(コーディネイター:赤井伸郎)

寄港地プログラム(石垣港)

・時間未定： 船上デッキにて石垣港の概要説明(全参加者)

当日 LINE で時間場所を連絡します。



寄港地プログラム(宮古島 平良港)

・時間未定： 船上デッキにて石垣港の概要説明(全参加者)

当日 LINE で時間場所を連絡します。



内容

特に満足したポイントを3つ.....	11
申し込むかどうかを考えていたときのクルーズへのイメージ.....	13
クルーズの概要を知ったときの感想および参加を決定した理由	15
申し込み後、乗船日前夜に考えたこと	19
乗船前にクルーズ客船が目の前に見えたとき、岸壁で眺めたときの率直な感想	21
乗船直後の感想	24
避難訓練、安全対策への感想.....	27
クルーズ船としての船内施設（ハード面）全体の感想	30
"船内サービス(ソフト) の感想	33
"船内の SHOW やエンターテインメントの感想	37
"船内の施設での体験に関する感想	40
乗船・下船港(那覇)での感想	44
寄港地（石垣島）での感想	47
寄港地（基隆）での感想.....	50
寄港地（宮古島）での感想	54
学生プレゼンへの感想	57
各港湾（自治体）プレゼンへの感想.....	61
スマート・クルーズ・アカデミー企画全般についての感想と今後の要望.....	65
地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割についての感想.....	68
寄港地の地域活性化に向けた、クルーズ船社（今回でいえば MSC ）の役割、船社が直面する課題、今後船社に期待すること	71
クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点).....	75
クルーズ全般への感想	78
***	82

学生アンケート

特に満足したポイントを3つ

- 1.。・大型クルーズ船ならではの圧倒的なスケール感と施設の充実度、・1回のクルージングで複数の土地で観光ができたこと、・学生および自治体関係者との交流を通じた学びの多さ
2. 1. 船内のブランディングや世界観が統一されていてよかった。2. 日本発着というのもあり、気軽だったこと。3. どの寄港地も面白かった。また行ってみたいと思えた。
3. 自治体の方と寄港地を観光したり、ターミナルのことについての説明も聞くことができたこと。他大学の学生と社会人の方々と交流ができたこと。少ない荷物で短期間で日本と外国に行けたこと。
4. 1. スマートクルーズアカデミーとしての企画の充実度 2. 寄港地観光の充実度 3. 今回の乗船を通して得られた人との繋がりや新たな知見
5. 1. サービスの質は素晴らしく、ウェブサイトのプロモーション画像から想像していた通りでした。2. 食事は美味しく、種類も豊富でした。3. 旅程は適切で、非常に柔軟でした。グループ旅行でしたが、グループに強制されることなく、各自が自分の観光地を自由に選ぶことができたので、乗客は様々な目的地で多くの興味深い体験をすることができました。
6. ビュッフェは料理の種類が豊富で美味しく、いつでも食べ放題で利用できた点が良かったです。屋内プールやジャグジーも快適で、台湾での友人との1日観光は思い出深い体験でした。
7. 満足したポイントの1つ目は、よりリーズナブルな旅行であることだ。通常なら各寄港地に行くのに莫大な交通費がかかるがその必要がなく満足している。2つ目は、非日常を味わえたことである。豪華客船という誰もが体験できない経験ができたこと、毎日のスケジュールが埋まって充実していたことに満足している。3つ目は、海外に行けたことだ。自身初海外なので良い経験ができた。
8. ① 船内施設とサービスの充実度：MSC ベリッシマは船内が非常に広く、レストランやプール、シアターなどの施設が充実していた。移動時間も退屈することなく、日ごとに異なる過ごし方ができた点が特に印象に残っている。

スタッフの対応も丁寧であり、終始安心して快適に過ごすことができた。② 多様な寄港地を一度に体験できた点：那覇を出発し、石垣島、台湾（基隆）、宮古島と、国内外の複数の寄港地を巡る行程であった。それぞれの地域で異なる文化や街並み、雰囲気を感じることができ、短期間ながら非常に充実した旅行となった点に満足している。③ 移動の負担が少なく快適であったこと：宿泊と移動を同時に行えるため、荷物の持ち運びや長距離移動の負担が少なかった。夜間に次の寄港地へ移動するため、観光時間を十分に確保でき、体力的にも余裕を持って旅行を楽しむことができた。

9.・食事が充実していた。・船内が綺麗だった。・運動施設があった。

10.・普段の旅行よりも遙かに、非日常的な空間を味わうことができた点・一緒に乗船した人と楽しむだけでなく、パーティーやショーを通して国際交流が出来た点・おいしいご飯をたくさん食べることができた点

11.第一に、船内ショーの完成度が高く、非常に見応えがあった点である。第二に、コース料理を自分で選択でき、自分の好みに合わせた食事が楽しめた点である。第三に、ドレスコードが設けられており、日常生活では味わえない非日常的な体験ができた点である。

12.①非日常的な空間を楽しむ②船内設備の充実度③食事の選択とクオリティ

13.・クルーズ船という初めての経験であり、船内のすべてが日常とは異なる空間のように感じられ、終始高揚感を覚えた点である。移動手段でありながら滞在空間でもある船内の雰囲気は、非日常性が強く印象に残った。・寄港地が石垣島、宮古島、台湾であった点も非常に満足度が高かった。朝から夕方頃までの限られた時間でありながら十分に楽しむことができ、その一方で「また訪れたい」と思える余白が残る点が魅力的であった。一日中滞在する旅行とは異なる、クルーズならではの訪問体験の価値を実感した。・普段の大学生活では社会人と対等な立場で意見交換を行う機会がほとんどないため、港湾関係者や他大学の参加者と交流できた点も大変有意義であった。学生という立場でありながら、対等な目線で接していただけたことは貴重な経験である。また、スポーツ交流会において大人が真剣に取り組む姿を見たことも印象的で、世代を超えた交流の良さを感じた。

14.1. 毎日、シアターショーを予約して見に行ったが、4日間全て内容が違って見て楽しかった。2. 見る景色全てが初めてであり、異世界空間で貴重な経験をすることが出来た。3. いつもならダンスを踊ったりするのは日本人は特に恥ずかしいはずなのに、いい意味で船内にいるというだけで途端に

その恥ずかしさがなくなって、その場にいる人みんなが楽しそうに踊っているというあの空間が素敵だった。

15.・クルーズ船旅行という非日常体験をすることができ、毎日充実した生活を送ることができた点 ・夜のショーを想像以上に楽しむことができて、毎日参加して良かった点・数日間にも関わらず、船内の他の乗船客の方と交流ができた点

16.① 船内にはプールやアスレチックなど、想像していた以上に多様な施設があり、移動時間そのものを楽しめる点に満足している。落ち着いた空間と、はしゃげる空間の両方が用意されており、気分に合わせて過ごし方を選べることが魅力である。② 長時間船内で過ごすことに不安があったが、実際には閉塞感が少なく、客室もホテルのように落ち着いていて快適であった。移動手段ではなく「滞在する場所」として設計されている点に満足している。③クルーズという環境に身を置くことで、日常とは異なる時間の流れや価値観に触れることができた。今後の人生でなかなか経験できない体験であり、世界が広がったと感じられた点に大きな満足感がある

17. ・社会人と交流できたこと： ・クルーズ船という手段での旅を経験できたこと： ・海外文化に親しむことができたこと

申し込むかどうかを考えていたときのクルーズへのイメージ

1.クルーズは富裕層や年配層向けの旅行形態という印象を持っており、30代の自分に適した旅行形態かどうかは未知数である。船内でのコンテンツが多いのでどこまで楽しむことができるのかの不安がある。一方で、非日常的な体験ができる点には魅力を感じている。

2.乗船経験あり

3.乗船経験あり

4.乗船経験あり

5.デッキでたくさんの素敵な写真を撮ったり、夕日や日の出を眺めたり、素晴らしい海の景色を眺めながら美味しい食事を楽しんだり、友人や家族とたくさんの思い出を共有したいと思っています。また、ジム、プール、ダンス教室、人気の夜のエンターテインメントプログラム、そして特に船長と特別なパーティーで会える機会など、船内の設備も存分に活用したいと思っています。さらに、他の学校の友人や先生方と交流できる機会も、この船への参加のモチベーションになっています。。

- 6.スマートクルーズアカデミーに参加する前は、初めてのクルーズ体験で、どのようなものか正直想像が付きません。実際には、船は想像以上に大きく、エンターテインメントも充実しています。海上ではインターネットが使えず不便さを感じますが、スケジュールがあるため行動には困りません。最初は船内で迷ったり、2 日ほど船酔いを経験したりしますが、慣れると家族向けで快適な環境や多くの娯楽を楽しめます。
- 7.華やかなイメージがあった。実際にゼミの先輩方が去年クルーズに行っていたこともあり、そのときの写真を見る機会があったが、そこでは、スーツ姿やキラキラと光るフロアでの写真などがあり派手な印象だ。また、暇になる時間もでてきそう。付随して、クルーズ内はどのくらい楽しめるものなのかという不安もある。
- 8.クルーズ旅行に申し込む前は、クルーズは高齢者向けの落ち着いた旅行であり、行動が制限される場面が多いというイメージを持っている。また、船内で過ごす時間が長いため、移動中は単調で退屈してしまうのではないかとという不安もある。さらに、団体行動が中心となり、自由に観光できる時間が少ない旅行形態であるという印象が強く、若年層が主体的に楽しむことは難しいのではないかと。
- 9.クルーズと聞いてまず思い浮かぶのは、非日常的な贅沢さとゆったり流れる時間である。豪華な船内、海を眺める優雅な生活は、特別な人だけの旅行というイメージである。敷居が高く、自分には縁遠い存在だろう。テレビの世界のように思える。
- 10.先輩が行っていた時の写真等を見て、船の中に様々な施設が備わっており、買い物・パーティーを楽しめそうだと感じている。船がとても大きくてあまり揺れを感じないと思っている。船内がとても広く、迷子になりそうだと感じている。
- 11.クルーズに対しては、豪華で特別な体験という印象がある一方で、実際に何をして過ごすのかが具体的に想像できず、不安を感じている。船の中で長時間過ごすことに対して退屈しないのか、自分自身が十分に楽しめるのか分からず、敷居の高い旅行形態というイメージを持っていた。また、クルーズは年齢層が高い人向けのものという印象もあり、学生である自分が場に馴染めるのかという点についても不安だ。
- 12.クルーズ船は裕福な人向けで、敷居が高い旅だと感じている。船の中で長時間過ごすため、退屈しそうという不安をもっている。移動は楽でも自由度は低く、上級者向けの旅行だと感じている。

13. 写真を見た際、船内は非日常的で華やか、いわゆる「キラキラした空間」という印象を受け、非常に魅力的だと感じる。また、食事が充実しているイメージが強く、食べることが好きなので、どんな食事を楽しめるのだろうとワクワクしている。テレビなどで「世界一周クルーズ旅行」といった広告を目にすることはあったが、そのような特別な体験を自分自身が、しかも大学生のうちに経験できるとは想像していなかった。そのため、参加できる可能性があることに、大きな期待をしている。
14. 船内で楽しむことの想像は全くできず、かつ楽しそうというイメージより怖い、不安が大きい。また、海の上を移動している船の中で、運動したり、ごはんを食べたり、寝たりすることへのイメージが湧かない。プラスのイメージというよりは、マイナスイメージの方が大きい。
15. 先輩たちが参加した際の写真やお話を聞く中で、船内の豪勢な雰囲気と食事、船内のアクティビティの充実性に惹かれ、船内だけでも充実度が高いと感じている。また、ドレスコードを着てパーティーを楽しむことができる点に魅力を感じている。クルーズ船で旅行をするということが選択肢にないため、金銭的に裕福な人しか参加しないだろう感じている。
16. 申し込むかどうかを考えている段階では、クルーズは楽しそうな旅行の一つという印象を持っている。もともと旅行が好きなので、非日常の移動手段として興味はあり、大人っぽくて豪華、ゆったりとした時間を過ごすものだと想像している。一方で、落ち着いた雰囲気の中で静かに過ごす旅というイメージが強く、友人同士ではしゃぐような要素はあまりないのではないかと感じている。船の中で何をするのかは具体的に思い浮かばず、「優雅」「特別」といった言葉が先行し、自分がその空間を十分に楽しめるのかは少し半信半疑な状態である。
17. クルーズといえば、大きい船というざっくりしたイメージである。豪華でリッチなイメージもあり、少し敷居が高いものだと感じている。船内がどんなものであるかなど、考えたこともなかったため、このような漠然としたイメージしか抱けない。コロナウイルスで有名になった船が、頭の中に浮かんでいる。。

クルーズの概要を知ったときの感想および参加を決定した理由

- 1.。クルーズの概要を知った段階で、船内施設の充実度や寄港地の多様さに強い魅力を感じている。特に、ショーやエンターテインメントが豊富である点、

そして日本語対応が整っている点が、初めてのクルーズ参加者として安心材料となっている。すでに乗船経験のある知人からも強い勧めがあり、私個人としても貴重な体験が得られると判断し、参加を決定している。

2. MSC ベリッシマは他の乗っていた人からすごく良かったと話を聞いていただけに期待していた。また、知り合いが MSC に勤めていたり、スポーツで MSC をよくみていたので、乗りたいとずっと思っていた。それぐらい今回のクルーズは楽しみにしていた。あとは個人的に沖縄がまだ行ったことなかった県だったから、その前後含めて話を聞いた時にはすぐ申し込むつもりだった。

3. 卒業前の最後に乗れる機会が、今まで2回乗船をして楽しい思い出しかなかったもので、参加を決めた。日本で寄港地のあるクルーズ船に乗ったことがなかったのも、寄港地がないときの船の過ごし方と違うのかなどワクワクしていた。また、沖縄に行ったことがなく、寄港地に石垣島・宮古島があると聞いて、行ってみたかったところだったので楽しみだと思っていた。

4. 赤井先生が「スマートクルーズアカデミー」という企画を主催されていることを、インターネットを通じて知ったのが、本企画に強い関心を抱いたきっかけであった。クルーズ観光は単なる移動手段や娯楽にとどまらず、地域活性化や港湾政策、観光産業全体と密接に関わる分野であると考えていたため、クルーズに関する自分自身の知見をさらに広げ、よりクルーズについて学びたいという思いが次第に強くなっていった。その中で、クルーズについて学べるスマートクルーズアカデミーは、まさに自分が求めていた学びの場であると感じ、ぜひ参加したいと強く思うようになった。しかしながら、当初は赤井先生へ直接ご連絡を差し上げる手段が分からず、参加への意欲がありながらも行動に移すことができない状況が続いていた。それでも諦めることなく、クルーズ関係の情報や関連団体のウェブサイト、過去のイベント情報などを手がかりに、赤井先生と連絡を取る方法をインターネット上で探し続けた。その結果、ようやく連絡先を見つけ、勇気を出してご連絡を差し上げることができた。その後、スマートクルーズアカデミーへの参加を許可していただけるとのお話を頂いた際には、大きな喜びとともに、学びの機会を得られたことへの感謝の気持ちでいっぱいになった。同時に、これから始まる学びへの期待感が一気に高まり、どのような知識や経験を得られるのか、また自分自身がどのように成長できるのかを想像しながら、当日を心待ちにしていた。

5. メディアでこの旅の情報を見た時、とても贅沢で、陸上の旅とは全く違う体験

ができたと思いました。

6.クルーズの概要を知ったとき、初めての体験のため期待と同時に少し不安も感じますが、全体としてとても魅力的だと感じます。船は想像以上に大きく、さまざまなアクティビティやエンターテインメント、設備が一か所に集まっている点に感動します。また、1日のスケジュールが明確で、計画的に船内生活を楽しめる点も安心でき、クルーズへのイメージと期待はより前向きなものに変わります。

7.クルーズの概要を知った時は率直に驚いた。それにはクルーズの規模間や施設の充実さ、イベントの多さなどが挙げられる。スポーツ施設やカジノ、ショー、パーティーなどまだ人生で触れたことのない経験ができることの楽しみを抱いた。参加した理由としては、先ほど述べた未知の領域に飛び込んでみたいという好奇心や4年最後を充実させたいという思いがあったから。

8.那覇を起点に石垣島、台湾（基隆）、宮古島と国内外の複数の寄港地を巡る行程であり、短期間でも多様な地域を効率よく体験できる点に魅力を感じた。また、船内にはさまざまな施設やエンターテインメントが用意されており、移動時間も充実した時間として過ごせることを知ったことで、クルーズは単なる移動手段ではなく旅行そのものを楽しむ形態であると認識が変わった。これらの点から、自由度と非日常性を兼ね備えた旅行であると期待し、参加を決定した。

9.食事や、施設など何から何まで充実しており、素晴らしい空間だと思った。イメージ通りではあったが、言葉が通じるか、決済の仕方や服装などどのような感じで行けばよいのか少し不安にも感じた。参加決定の理由は、人生でなかなか経験できないことだと思ったからである。

10.船内の展開図を見て思っていたよりも船内が広く、場所がわからなくなりそうだと感じた。船内だけでなく、屋上にウォータースライダー等があり、一日遊べそうだ。卒業旅行として、最後に特別な旅行をしたい。

11.クルーズの概要を知った際、船内には食事やショー、イベントなど多様なコンテンツが用意されていることを理解したものの、自分が実際にどのように楽しむのかについては依然として明確に想像できない状態だった。しかし、日常生活では体験できない非日常的な空間であることに強い魅力を感じていた。今後、クルーズ船に乗る機会が再びあるかは分らず、学生のうちに貴重な経験として挑戦してみたいと考え、参加を決意した。

12.料金に食事や移動、娯楽が含まれていると知り手軽さを感じた。

船内や寄港地で色々な過ごし方ができ、想像以上に自由そうだ。
また、非日常的を気軽に味わえる旅だと期待が高まり参加を決めた。

13.クルーズの概要を知ること、船内においてどのような体験ができるのかを具体的にイメージできるようになり、参加したいという気持ちが一層強まっている。単なる移動や観光にとどまらず、船内プログラムや交流の機会が用意されている点に大きな魅力を感じる。時期的にも学生生活最後の旅行になる可能性が高いと考え、この機会を逃したくないと思い参加を決定した。また、前年に参加した先輩から実際の体験談を聞いたことで、内容をより身近に感じる事ができ、自分自身がその場にいる姿を想像するようになった。想像しきれない非日常的な体験への期待が高まったことも、参加を後押しした理由である。

14.怖さや不安は概要を知った後も消えることはなかったが、今後の人生で1回経験出来るか出来ないかの貴重な機会かもしれないと思ったため、参加を決めた。また、今回この機会にクルーズの良さを知ることが出来たら、家族や自分の大切な人と一緒に行く旅行の選択肢が増えるかもしれないと思ったから。

15.4泊5日という長い旅と船内の充実度に驚く。寄港地にも寄るため、船内をすべて見る事はできないだろうと感じる。クルーズ船に乗るだけで、次の日には寄港地に到着している点が、宿泊と移動を兼ね備えており、一石二鳥だと感じ、クルーズ船に乗るという貴重な体験を大学生で経験できることはないため、参加を決定しようと思う。

16.クルーズの概要を知ったとき、これまでの落ち着いた大人の旅というイメージが大きく変化している。船内にアスレチックやプールがあることを知り、想像以上にアクティブで、はしゃぐこともできる空間なのだと感じた。また、移動しながら多様な体験ができる点に魅力を覚え、単なる旅行ではなく、自分の世界を広げる機会になると考えている。ここで参加しなければ、今後の人生でクルーズに乗ることはないかもしれないという思いも強く、この経験を逃すのはもったいないと感じた。新しい環境に身を置くことで、自分の価値観や視野が広がるのではないかと期待から、参加を決意した。

17.クルーズ船の概要を知ること、高級で限られた人のものという印象が薄れ、誰でも気軽に参加できる旅行手段だ。移動・宿泊・食事が一体となり、船内イベントや寄港地観光など多様な楽しみ方ができる点に魅力を感じる。今までに体験したことのないイベントであり、貴重な経験になると考え、参加を決意した。

申し込み後、乗船日前夜に考えたこと

- 1.。乗船日前夜は、初めてのクルーズということもあり、未知の体験への期待が大きく膨らんでいる一方で、船内でのコミュニケーションや過ごし方に慣れることができるかという不安も抱いている。しかし、ショーや寄港地観光など楽しみにしている要素が多く、総じてワクワク感が勝っている。また、他の参加者との交流や学びの機会にも期待を寄せている。
- 2.旅行の準備をしたり、クルーズだからといって少しおめかしではないが、良い服を着る良い機会なので、そういう楽しみも感じている。普段はリュック一つで旅行している分、少し荷物を持って旅行するのが私にとっては新鮮だ。あとは、1月の沖縄と台湾は、現在地よりは暖かいのは分かりつつ、風が強いことを知っているので、服装はよく考えてえらんところだ。
- 3.他大学の学生と同室でうまく話せるかどうか、自治体の人と乗ることが初めてなのでどういう感じで絡むことができるのかと不安に思う。前回 MSC ベリッシマに乗ってできなかったアクティビティをやりたい。それぞれの寄港地でどこに行き何をしよかな何食べようかなと考えているところだ。
- 4."今回のクルーズでは、同行する参加者のほとんどが初対面の方々であり、出発前には多少の緊張を感じている。しかしながら、前回参加したクルーズ プラネットのスタディーツアーにおいても、当初は互いに面識のない学生同士であったにもかかわらず、航海を共にする中で自然と打ち解け、良好な関係を築くことができた経験があった。その経験を通じて、クルーズには人と人との距離を縮め、短期間で深い交流を生み出す力があることを強く実感している。船内では、食事やイベント、寄港地観光など、参加者が同じ時間と空間を共有する場面が多く、自然と会話が生まれやすい環境が整っている。そのため、初対面であることに対する不安よりも、むしろどのような背景や関心を持つ人々と出会い、どのような意見交換ができるのかといった期待の方が次第に大きくなっている。また、今回はクルーズに関する新たな知見や視点を得ることを目的として参加していたため、人との出会いを通じて学びを深められる点にも大きな魅力を感じている。結果として、不安よりも「学び」と「交流」に対する前向きな気持ちが勝り、今回のクルーズが自分にとって非常に有意義な経験になるであろうという確信を持って出発の日を迎えることができている。"
- 5.ルームメイトとうまくやっていけるだろうか、日本語でプレゼンテーションができるだろうか、一緒に旅行する人たちと日本語でコミュニケーションが取れ

るだろうか、とても心配です。ほぼ 1 週間、ほとんど日本人の人たちと過ごすことになるので、これまでの旅行はほとんど家族との旅行だったので、とても不安です。

6.乗船日前夜は、不安よりも期待の気持ちが強く、とてもワクワクしています。那覇に滞在し、ウミカジテラスや国際通りを訪れ、沖縄の文化や地元の料理、美しい景色を楽しみます。こうした体験によって気持ちが落ち着き、翌日から始まるクルーズへの期待がさらに高まります。

7.何も考えれずただ期待しかなかった。乗船するにあたり先生にクルーズの概要を聞いたり、YouTube でベリッシマ攻略の動画を見たり効率的に動けるような準備をしていたので不安は一切なく早く乗船したいの気持ちだけだった。不安を強いてあげるとしたら、男子のみで沖縄に前泊旅行をしていたので忘れ物がないかだけ心配であった。

8.申し込み後、乗船日前夜はこれから始まる非日常的な時間に強い期待を抱いている。船上での生活や、多彩な船内施設でどのような時間を過ごせるのかを想像し、移動そのものが楽しみになる旅行であると感じている。また、那覇から石垣島、台湾（基隆）、宮古島へと続く航路を通じて、それぞれ異なる文化や景色に出会えることにも大きな期待を寄せている。

9.次の日、荷物検査やパスポート確認などでひっかかるのではないかと、色々不安には感じていた。

10.荷物は何が必要なのか、船内で何を使うのか（使えるのか）がよくわからず、荷物が多くなってしまう。 船内の施設やアクティビティをどれだけ楽しむことができるのか、楽しみである。 船内が広くて迷子になってしまわないか、ちゃんと集合場所にたどり着けるのか、不安である。

11.乗船日前夜、これから始まる非日常的な体験への期待と同時に、安全面に対する不安を強く感じている。ニュースや映画で見た海難事故の映像が頭に浮かび、タイタニック号やセウォール号といった出来事を想像してしまう。一方で、未知の体験へのわくわくした気持ちも大きく、不安と期待が入り混じった複雑な心境だ。無事に楽しい時間を過ごせることを願いながら、乗船当日を迎えるだろう。

12.乗船日前夜は、特別な体験への期待が高まっている。船酔いや持ち物、集合時間など細かな点に少し不安を感じている。それ以上に船での食事や景色への期待が大きくなっている。

13.申し込み後から乗船日前夜にかけては、持ち物や当日の流れなど不明点

が多く、同じく参加する友人と頻繁に連絡を取り合っている。翌日から自分が実際にクルーズ船に乗っている姿がまだ現実味をもって想像できず、不思議な感覚で過ごしている。一方で、強い不安を感じているわけではなく、むしろこれから始まる非日常的な体験に対する落ち着いた期待を抱いている。年末年始に食生活が乱れていたこともあり、クルーズ中の食事を存分に楽しみたいと考え、前日は食事量を控えようとしているが、結果的には通常通り食事を取ってしまい、少し反省している。

14. 自分の人生において間違いなく、記憶に残る貴重な経験になるだろうと思っており、4泊5日への期待と船の上で生活することへの不安や心配が大きい。また、船内の Wi-Fi を元々買わない予定だったため、船内で連絡が取れないことへの不安も大きい。
15. 写真で見ていた船内の豪華さを自分の目でみるができるということに期待をしている。毎日違うパーティーが開かれると聞いており、乗船客が毎日そのパーティーの雰囲気に合わせて服装などを変える点がとても楽しみである。また、船内でスマートフォンが使えないと聞きとても不安を感じている。
16. 申し込みを終え、乗船日前夜には強いワクワク感を抱いている。楽しみな気持ち先立ち、普段の海外旅行に出発する前日のような軽い高揚感で、なかなか眠れない状態である。一方で、不安が全くないわけではなく、特に英語でのやり取りに対する心配が頭に浮かんでいる。メニューの内容を理解して注文できるのか、聞き返されたときに対応できるのかといった場面を想像し、少し緊張している。それでも、不安よりも期待の方が大きく、新しい体験を前向きに楽しもうという気持ちで当日を迎えようとしている。
17. どんな旅になるのか、前例がないため、不安と期待の両方がある。アカデミーでプレゼンがうまくいくか、船酔いは大丈夫か、などの不安面と、コース料理はどんなものが食べられるのか、寄港地では何をして過ごそうか、などの期待面がある。総合的な感想としては、未知の世界へ行くことにワクワクしている。

乗船前にクルーズ客船が目の前に見えたとき、岸壁で眺めたときの率直な感想

(規模・スケールなど)

- 1.。岸壁から船体を目にした瞬間、その巨大さとスケールに圧倒されている。写真や動画で見ていた以上に迫力があり、ワーマンションを横に倒したような印象も得ている。これほどの規模の船がどのように運営されているのか、船

内の構造やサービスの仕組みに対する興味も強く湧き、乗船前から高揚感が一気に高まっている。

- 2.どのクルーズでもそうだが、やはり大きい船が見えるとその大きさに驚くし、これから乗るんだというワクワク感がある。それは国内のフェリーでは味わえない感覚だし、何度も乗っているとまた乗りたいと思えるから、中毒性があると思う。まだ若いからお金をかけて旅行するというのに躊躇してしまうが、歳を経るにつれて誰か一緒に楽しめる人と乗りたいという感覚を持つようになった。
- 3.那覇に前泊をしてタクシーでクルーズターミナルまで行ったが、途中で運転手さんが船が見えやすいところに連れてってくれた。船を見たとき、初めて乗る船ではないのにこれからこの船に乗れるわくわくとドキドキの気持ちが高まった。何回クルーズ船を見ても大きさに圧倒されて、重さで水没しないのがすごいなと感じた。
- 4.ベリッシマには一度乗船したことがあったので、スケールが大きいということはわかってはいたが何度見ても驚くぐらいのスケールであった。自分は県庁前にホテルをとり、港まで1時間半ほど歩いてクルーズに乗船したのだが、海岸沿いに出るとすぐにベリッシマが見えたので、その圧倒的なスケールと存在感にこれからこのクルーズ船に乗るんだという高揚感を非常に感じた。また、地域住民の方たちのベリッシマをみて大きい船だと話している声が聞こえたので、それだけ地域に与えるインパクトも大きいクルーズ船なんだなと感心した。
- 5.船の大きさは当初想像していたよりもはるかに大きく、まるで海に浮かぶ移動式の五つ星ホテルだ。船を背景に自分の写真を撮ろうとするが、うまく撮れない。そのスケールの大きさに本当に圧倒される。また、乗船手続きや乗船直後は、船内でどのように動いているのか想像もつかない。
- 6.乗船前に岸壁からクルーズ客船を目の前に眺めた瞬間、その圧倒的な規模とスケールに強い驚きを感じる。これほど大きなクルーズ船を見るのは初めてで、風の強い天候も相まって、その迫力がさらに増す。まるで船というよりも巨大な「動くホテル」に足を踏み入れるような感覚で、期待と同時に少し圧倒される。
- 7.感想としては2つある。1つ目は国際通りからタクシーでターミナルに向かっているが、手前の港には別のクルーズ船が停泊しており、その奥に遠くではあるがベリッシマが見える。遠近法のバグがあるかのようなベリッシマの大きさに驚いている。次にターミナルに着き、ベリッシマを目の前にし見たこと

のない大きさの船で言葉が出ない。さらに大きすぎて写真に収まらない。

- 8.乗船前、岸壁からクルーズ客船を目の前にした瞬間、その圧倒的な規模と存在感に強い衝撃を受けている。建物のようにそびえ立つ船体は視界を大きく占め、これから始まる旅のスケールの大きさを実感させる。写真で見ていた客船のイメージとは異なり、実物は想像以上に巨大であり、内部での生活や移動そのものが一つの街の中で行われるかのような印象を抱いている。
- 9.写真で見る以上に大きくて迫力がある。早く乗船して中を散策したい。
- 10.想像の何百倍も大きく、迫力がある。タイタニックで見たようなオレンジの非常用の船が見えて、本当にあの大きな船に乗るのだと、テンションが上がる。遠くから見ても存在がわかるほどに大きい、下からでも屋上のウォータースライダーが見えてまたテンションが上がる。
- 11.実際にクルーズ客船を岸壁から目の前で見た瞬間、想像していた以上の大きさと迫力に圧倒される。写真や映像で見るのとは全く異なり、巨大な建造物が海の上に浮かんでいるような感覚を覚える。まるで高層マンションを見上げているかのようにあり、そのスケールの大きさに強い非日常感を感じる。
- 12.想像していた以上に巨大で、建物のような船体に圧倒されている。岸壁に立つと自分がとても小さく感じ、そのスケールに驚いている。これから始まる旅の非日常感に期待が一気に高まっている。
- 13.那覇空港から港のクルーズバスへタクシーで移動する中で、徐々にクルーズ客船の姿が見えてくるにつれ、その規模の大きさに圧倒されている。海に面していない地域で生活しているため、普段から船を見る機会が少なく、これほど巨大な船を間近で目にするのは初めてであり、強い高揚感を覚えている。岸壁に到着し、実際に目の前で眺めると、そのスケールは想像以上で、写真に収めようとしても全体が画角に入りきらないほどである。一緒に移動している友人とも驚きを共有し、言葉にならない感想を繰り返している。あまりの大きさに、船内で迷ってしまうという確信を持っている。
- 14.想像以上に大きくて衝撃を受けている。また、これだけ大きかったら心配していた揺れ等もそこまで大きくないのではと船の大きさを目の当たりにして、少し不安を払拭出来ている。タイタニックを彷彿とさせ、自分の人生で見た船の中で一番大きい。自分がこの船に乗って4泊5日過ごすことも想像出来ない。
- 15.乗船前にクルーズ客船を目の前にして、圧倒的な大きさと存在感に圧倒さ

れる。話を聞いたり、写真をみたり、大きな船であることは認識していたが、実際に見ると想像を超える大きさである。これからこの船で5日間過ごすと思うと少し不安もあるが、とてもわくわくしている。

- 16.乗船前に岸壁からクルーズ客船を目にした瞬間、まずその大きさに圧倒されている。想像していた以上に巨大で、本当にこれが海に浮かんで動くのかと不思議に感じ、アルキメデスの原理を実感している。船というよりも一つの建物、あるいは街がそのまま海に出ているように見え、これからこの中で生活するという事実が現実味が湧いてくる。規模の大きさから、これまで経験してきた旅行とはまったく異なる時間になるのだと感じ、期待と緊張が同時に高まっている。
- 17.船を目の前で見て、とにかく大きいと感じる。また、船の最上階に何かがあるのが見えて、とにかく窓の数が多いことが印象的である。船は真横からしか見られず、目の前から見るとどれだけ大きいのだろう！船がとても大きく、救命ボートが小さく見え、少し不安である。

乗船直後の感想

(自分のイメージしていた内容と比較した「船内の様子」)

- 1.。乗船直後、船内のパブリックスペースは想像以上に広く、ホテルのロビーのような華やかさがあり驚いている。船員さんの態度も丁寧かつフランクで、初めての乗船でも安心して行動できる雰囲気が整っている。事前に抱いていた通り「非日常的な体験ができる」というイメージが明確となり、快適性と豪華さが両立した空間であると感じている。
- 2.日本発着だからかわからないが、日本語が通じやすいと思った。ある意味それは気軽さがある一方、非日常感が少し失われる部分なので一長一短だと感じる。他のクルーズに比べておとなしい人が多いと感じた。クルーズのクルーと一緒に楽しむというよりは、仕事に従事している感があつた。それはアジア人が多いからなのかもしれないし、それがMSCなのかもしれない。
- 3.お昼前に乗ったため船内にあまりお客さんがいなく、閑散としているクルーズ船の中を見ることができた。何度見ても船の中にショッピングモールがあるような景色に圧倒されるぐらいクルーズ船は魅力的だと感じる。どこを見てもきれいでゴージャス感があり、テーマパークに来たような気持ちになれる。
- 4.今回のクルーズに乗船して特に印象に感じる点としては、前回からわずか一か月しか経過しておらず、さらに同じMSCベリッシマ、同一の航路であ

ったにもかかわらず、船内の雰囲気が大きく異なっている点が挙げられる。船内の混雑状況や人の流れ、レストランや共有スペースのにぎわいなどを通して、前回とは明らかに異なる空気感が漂っていると実感する。私が特に注目したのは、寄港地に石垣島が含まれているかどうか、乗船率に大きな影響を与えている点である。今回のクルーズでは、船内の多くの施設が常に多くの乗客で賑わっており、満室に近い状態である。一方で、前回のクルーズでは同じ航路でありながら、比較的空室が目立ち、船内全体に余裕のある印象を受けた。この差は、石垣島という人気の高い寄港地の有無が、クルーズ選択において非常に重要な要素となっていることを示していると考えられる。また、前回のクルーズでは初日に那覇港に停泊する日程が組まれていたが、改めて考えてみると、多くの乗客は前泊をして那覇に集合していると推測されるため、初日に那覇に停泊する必要性については疑問が残る。寄港地としての魅力や観光価値という観点から見ても、那覇停泊がクルーズの付加価値として十分に機能していなかった可能性があり、その結果として需要が伸び悩み、空室が多くなっていたのではないかと考える。この経験を通じて、クルーズにおいては船の規模や設備、航路そのもの以上に、「どの寄港地が含まれているか」が集客に与える影響が極めて大きいことを実感している。同じ船、同じ航路であっても、寄港地の組み合わせ次第で乗客層や船内の雰囲気が大きく変化するという点は、クルーズ商品を企画・販売する上で非常に重要な視点であると思う。

5. 船内のスタッフとクルーのほとんどはとても歓迎的でフレンドリーで、公共エリアで働く他のスタッフもとてもオープンで、喜んで助けてくれる。少し驚いたのは、船で働くスタッフの多様性である。様々な国から来ているが、全員が英語でコミュニケーションを取っている。
6. 乗船直後は、船内の雰囲気が自分のイメージしていたものと少し異なり、正直なところ、最初はわずかな残念さを感じている。しかし、パブリックスペースを歩くうちに、整理されていて活気があり、快適な空間であることに気づいている。船員の方々の対応も丁寧で親切なため、期待との違いはありながらも、全体としては十分に満足し、船内の雰囲気を楽しんでいる。
7. イメージよりも大きく華やかだ。乗船した後軽く船内を散歩して大まかな概要を掴もうとしたがあまりの大きさに迷子になる。またプロムナードを初めて見たときの景色は忘れることはないくらい綺麗で感動している。船員さんは乗船するときに個人の名前を呼んでくれ、穏やかで、乗船する私たちを歓迎してくれているように感じる。

- 8.乗船直後、船内に足を踏み入れると、事前に抱いていたイメージ以上に開放的で洗練された空間が広がっている。パブリックスペースは広く明るく、通路やロビーも混雑を感じさせない設計であり、移動するだけでも快適さを感じる。また、船員の対応は非常に落ち着いており、笑顔で丁寧に案内する姿勢から、安心して船内生活を送れると感じる。クルーズ客船は閉鎖的な空間であるという先入観は薄れ、むしろ一つの街のように機能する快適な空間であるという印象を強く持っている。
- 9.船内は想像よりも広い。また、スタッフさんも日本人の方々や感じの良い外国の方なども沢山いて、不安が解消される。
- 10.部屋から外の様子がわかると思っていた為、部屋に窓がなく少し怖い。パブリックスペースはとても煌びやかで、歩いているだけでテンションが上がる。船員さんの態度は、日本語で優しく対応してくれる方もいれば、学生だからと馬鹿にする船員さんもいたのは残念。
- 11.乗船直後、船内の雰囲気は自分が想像していた以上に国際的であり、日本にいながら海外に来たような感覚を抱く。船員の多くが外国人であり、英語を中心としたコミュニケーションが行われている様子から、グローバルな空間であることを強く実感する。また、さまざまな国籍の乗客が同じ空間で過ごしており、船内全体が国際都市のような雰囲気を持っている点が印象的である。
- 12.船内は、想像よりも明るく広くてロビーの豪華さに驚いている。人が楽しめる場所が多くて、人が多くても窮屈さを感じないと実感している。船員さんの丁寧な対応が印象的で、旅への期待が高まっている。
- 13.乗船直後、船内に足を踏み入れた瞬間、事前に写真で見て想像していた以上に華やかで洗練された空間が広がっており、強い驚きと感動を覚えている。パブリックスペースは照明や内装がきらびやかで、非日常的な雰囲気に満ちている。また、その空間ではシンガーによる歌唱やピアノの生演奏が行われており、移動中であっても常に楽しめる工夫がなされていると感じている。船員の方々も終始丁寧に落ち着いた対応をしており、安心感のある環境が整えられている点も、事前のイメージを良い意味で上回っている。
- 14.とにかく船の中がキラキラしていて綺麗で、初めて見る景色ばかりが広がっているが。船内の客室がずらりと並ぶ一本の廊下がここでもタイタニックを彷彿とさせる。船員さんは日本人ばかりかと思っていたが、海外の方ばかりで驚いている。でも日本語喋れる方もいらっやって、安心だ。
- 15.乗船直後、船内は自分が想像していた以上に開放的である。パブリックス

ペースは常に多くの人が行き交っているが、天井が広く、窮屈さは感じない。船員さんは、すれ違うと挨拶をしてくれたり、手を振ってくれたり、笑顔で話してくれる人が多く、好印象である。

- 16.乗船直後、船内に入ってまず感じたのは、想像していたよりも閉塞感がない。広いパブリックスペースや視界の開けた構造のおかげで、長時間船内で過ごしても息苦しさはなさそうだ。客室もホテルのように落ち着いた雰囲気、移動手段というより滞在空間として整えられており、安心感を覚える。船員の方々の対応も丁寧で、初めての乗船で戸惑う中でも自然に案内してくれる姿勢が印象的である。全体として、想像よりもずっと過ごしやすい空間だ。
- 17.船員の皆さんはとてもフランクで、挨拶をしてくれた。人同士のコミュニケーションとそこから広がる雰囲気に外国文化を感じている。パブリックスペースについては、想像よりも高級感があり、天井の大きなスクリーンなど、見たこともないものばかりで驚きの連続だ。

避難訓練、安全対策への感想

- 1.。避難訓練はスムーズに進行し、乗客が迷わないようにスタッフが的確に誘導していた点が印象的である。安全対策の説明も明確で、非常時の行動がイメージしやすかった。大型船であるがゆえに安全面への不安が多少あったが、訓練を通じて安心感が大きく高まった。
- 2.避難訓練は船によって違うと思うが、簡易的だと感じた。コスタセレーナの時は自分の浮き具を持って集合するタイプであったし、船によって違うのだと感じた。一番気になったのは、私の英語力不足なのもあるが、次の点である。電話をかけて、「受け付けました」という自動音声が出るのだが、その英語がうまく聞き取れなかった。そういう部分は英語なんだと思うと、やはり英語は大事なんだと思った
- 3.実際に避難対応に追われたときお客様のパニックに対応しきれのか不安になった。しかし、避難経路を実際に行かせて確認させるという訓練はいいと思った。
- 4.今回のクルーズにおける避難訓練は、船内のテレビモニターを通じてレクチャーを受ける形式で実施されていた。客室内で映像を視聴し、集合場所でチェックインするだけで手続きが完了する仕組みであり、実際に乗組員から直接説明を受けたりする従来型の訓練と比べると、簡略化された印象を受けた。一方で、このような形式が採用されている背景について考えてみると、ベリッシマのような大型クルーズ船において、全乗客を対象に厳格な集合

型の避難訓練を実施することの難しさがあるのではないかと推測した。乗船直後は、非日常的な空間に対する期待感が最も高まるタイミングであり、その中で時間を拘束し、緊張感のある訓練を強く求めることは、顧客満足度の低下につながる可能性もある。そのため、乗客の心理面への配慮と、安全確保の最低限の要件とのバランスを取った結果として、現在のような形式に至ったのではないかと考えた。

- 5.機内で放映されたビデオには、乗客の安全と緊急時の対応に関する必要な情報がすべて記載されていました。しかし、初めて参加した時は電話での確認が必要だったため、少し戸惑いました。幸い、ルームメイトがやり方を知っていました。飛行機内で提供される情報とほぼ同じだと感じました。また、乗務員による訓練は非常にプロフェッショナルで、大変感銘を受けました。
- 6.避難訓練の前は、内容が難しく、指示についていくのが大変だと感じます。しかし実際には、案内が分かりやすく、全体の流れも整理されているため、スムーズに理解できます。船員の方々が丁寧に説明してくれることで安心感が生まれ、船内の安全対策に対して信頼と安心を感じます。
- 7.避難訓練は重要だと感じた。実際に豪華客船での事故は過去に有名な件もあり必要不可欠であると感じている。各部屋におかれたテレビに一斉に避難情報が流れていたのが安全だと感じた。しかし、乗船間もない私と同部屋の相方と一緒に集合場所に向かったがクルーズが大きすぎてなかなか目的地にたどり着かなかったのを今でも覚えている。
- 8.避難訓練では、乗客が落ち着いて行動できるよう、手順が分かりやすく整理されていると感じている。集合場所や行動の流れは明確に示され、初めてクルーズに参加する者でも戸惑うことなく参加できる内容である。また、船員は常に周囲に気を配りながら丁寧に誘導しており、安全を最優先に考えている姿勢が伝わってくる。
- 9.避難訓練は、少し説明がわかりづらいと感じた。場所もまだ把握できていなかったため。あのような避難訓練を行うのは安全性の面でよいと感じた。
- 10.乗船した全員がわかる内容の避難訓練であり、避難場所もわかりやすい。その上、内容をしっかりと把握していないと確認番号がわからないようになっており、よくできているなと感じている。避難訓練の動画が3カ国語ぐらいあって、誰でも理解できるようになっており、感心している。
- 11.避難訓練では、万が一の事態を想定した具体的な行動が説明され、安全対策がしっかりと取られていると感じた。避難場所へ向かう途中で迷ってしまった際には、船員がすぐに声をかけ、分かりやすく案内してくれた点が印

象的である。乗客一人ひとりの安全を重視する姿勢が伝わり、不安に感じていた事故への心配も次第に和らいでいった。

12. 避難訓練をする際のビデオは分かりやすく丁寧だ。 初参加のクルーズだったが、不安が和らいだ。 集合場所の説明が徹底されていたため、安全対策がしっかりしていると感じた。
13. 避難訓練については、開始時刻や方法が事前に十分把握できておらず、きちんと参加できるのか不安を感じた。訓練当日は案内スタッフが配置されていたため、指示に従って円滑に移動することができたが、実際の緊急時には必ずしもスタッフが近くにいるとは限らないと考えると、自力で適切に避難できるか不安が残った。また、訓練は自室からの避難を想定したものであったが、船内ではパブリックスペースで過ごす時間も長く、別の場所で非常事態が起きた場合の対応については十分に理解できていないと感じている。加えて、日本語対応のスタッフが常に近くにいるわけではないため、緊急時に円滑なコミュニケーションが取れない可能性に対して不安を覚えた。
14. 乗船後、早々に避難訓練があつて安全対策の面でしっかりしていると思って安心出来た。テレビでも映像が流されていたことで避難訓練の手順等もスムーズに理解することが出来、手こずることなく避難訓練を終えることが出来た。あれだけ大きな船なのに、誰が終わっていて誰が終わっていないのかを把握出来ているシステムも凄いと思った。
15. 避難訓練が義務付けられていることは乗船してから知った。初めて乗る船で万が一のことがあったときに、避難訓練がなかったら、どこに行っても良いかわからず、パニックになっていたと思う。客室のテレビで避難の仕方を簡単にみることができ、緊急用のボートも備えてあることも知ることができ、安心した。
16. 避難訓練では、日本語で説明が行われたことに大きな安心感を覚えている。指示が分かりやすく、集合場所や動線も明確で、初めてでも迷わず行動できるよう配慮されていると感じている。一方で、これだけ多くの人数が乗船している中で、救命ボートの数は十分なのだろうかという疑問も頭に浮かんでいる。その疑問を通して、クルーズは楽しい非日常であると同時に、多くの人の命を預かる場でもあるのだと実感している。安全対策の重要性を意識することで、より現実的にクルーズという空間を捉えるようになっている。
17. 避難訓練については、口頭や掲示物だけでの確認にとどまるのではなく、実際に非常時の対応を体験することで、避難訓練としての意義が最大に発

揮できるものになっていると感じた。避難訓練があったおかげで、非常時の対応を確認することができ、不安要素を一つ減らすことができた。

クルーズ船としての船内施設（ハード面）全体の感想

（船内施設・施設のレイアウトなど）

- 1.。船内施設は非常に充実しており、プロムナードを中心としたレイアウトは歩くだけでも楽しめる構造であり、百貨店のようにも感じた。レストランやバー、ショップが連続して配置されている点が、まるで商業施設の中にいるような感覚を覚えた。特にシアターやプールエリアは規模が大きく、船上とは思えない設備だと感じた。おすすめスポットとしては、プロムナード中央の吹き抜けエリアが雰囲気も良く、パレードを吹き抜け上部から眺めるのが壮観だった。また、ジャグジーも海を眺望でき、出航する様子を観ることができたことに感銘を受けた。
- 2.私は船後方の外のテーブルが段々に並んでいる所でよく本を読んだり、作業したりしていた。勿論ワイワイするのは楽しいのだが、ずっとは疲れるので一人で休みたい時はそこにいくとあんまり人がいなくて落ち着く。もし喉が渴いたらすぐ近くにバーがあるので、飲みながらお話しするのもちょうど良いと感じる。個人的に一番お気に入りスポットだった。
- 3.MSC ベリッシマは施設がきれいで、プロムナードのモニターも壮大でプロジェクションマッピングを見ているような引き込まれる演出などもあり、非日常を味わえる空間だと思う。おすすめスポットはモニターがあるプールデッキで、サマーベットで日光浴をするのがおすすめだ。心が安まってバカンスしている気持ちになれる。
- 4.ベリッシマは非常に規模の大きなクルーズ船であるため、船内を実際に移動してみると、高齢の方や足の不自由な方にとっては、移動そのものが大きな負担になるのではないかと感じた。客室エリアからレストラン、シアター、デッキへと向かう際には長い距離を歩く場面も多く、大型船ならではの課題があることを実感した。一方で、船内には数多くのエレベーターが設置されており、こうした移動の負担を軽減するための配慮が随所に見られた。エレベーターは比較的分かりやすい位置に配置されており、混雑時でも一定の回転率が保たれていた点からも、多様な乗客層を想定した設計がなされていることがうかがえた。バリアフリー対応という観点において、ベリッシマは

大型船として必要な設備をしっかりと備えていると感じた。また、特に印象に残ったのは、船体中央部に設置されている、海が見えるガラス張りのエレベーターである。上下に移動する際に、開放的な空間とともに海を一望でき、そのスケール感を改めて体感することができた。単なる移動手段にとどまらず、エンターテインメント性や非日常感を演出する設備としても非常に魅力的であり、ベリッシマを象徴する空間の一つであると感じた。しかしながら、そのエレベーターの窓にやや汚れが目立っていた点については、少し残念に感じた。せっかく眺望の良い設計であるにもかかわらず、視界が完全に活かされていないように思えたため、清掃やメンテナンスがより行き届けば、乗客の満足度はさらに高まるのではないかと感じた。

- 5.初めてのクルーズだったので、似たような体験との比較はできませんが、先ほども述べたように、まるで移動する五つ星ホテルのような気分でした。船内のサービスを楽しんだだけでなく、下船して他の興味深い場所を訪れることもできたので、とても充実した体験でした。船内のサービスにはほぼ満足しました。唯一の小さな問題は、ベッドが少し小さかったことです。
- 6.クルーズ船内の施設全体は充実しており、レイアウトも分かりやすく快適に感じます。特に屋外のジャグジーは景色を楽しみながらリラクセスできるため、最も気に入ったスポットです。また、これまでカジノを体験したことはありませんでしたが、今回初めて少し挑戦し、結果は出ませんでした。良い経験になりました。
- 7.船内施設の感想としては最高だった。特にプロムナードをしたから見たときと上から見たときの解放感や、光沢感のある螺旋階段など何回も来たいくなる要素が詰まっていた。特におすすめしたいスポットは中央屋上のライトアップされたプールを一望出来る場所や、15 階か 16 階のビュッフェの近くでクルーズ最後尾のポイントも、船の航跡が見れるのでおすすめである。
- 8.クルーズ船としての船内施設は全体的に完成度が高く、快適性と回遊性の両立が図られていると感じている。特にプロムナードは開放感があり、船内の中心として移動や滞在のどちらにも適した空間である。施設の配置も分かりやすく、初日から迷うことなく利用できている点が印象的である。また、喫煙者の立場から見ると、船尾側に設けられた喫煙所は人が少なく落ち着いた雰囲気であり、海を眺めながら静かに過ごせるおすすめのスポットである。
- 9.施設はジムや体育館などたくさんあり、非常に充実していた。おすすめスポットは、屋内プールにあるジャグジーです。

10. 大人から子供まで楽しめる色々な施設があり、飽きないと感じた。身体を動かして楽しむ施設と、ショッピングなどを楽しむ施設が分かれてまとまっており、動きやすいと感じた。外のデッキがおすすめスポットである。景色を一望できて、椅子に座って楽しむことができるからである。
11. 船内施設は非常に広く、移動するだけでも一つの観光のように感じられる構造であり、散策しているだけでも楽しい空間であった。一方で、シャワーの水圧が弱かった点や、客室にティッシュが備え付けられていなかった点には不便さを感じた。しかし、全体としては非日常的な雰囲気味わえる施設構成であり、船内を歩くだけでも特別な体験になると感じた。
12. 私が思うクルーズ船の船内施設の中で一番おすすめなのはスポーツ場だ。サッカーゲームであったり、バスケットボールができる環境があるのでよかった。初心者でも気軽に楽しめ、気分転換に最適な空間だと感じている。
13. クルーズ船内の施設は全体的に規模が大きく、多様な設備が整っていると感じている。一方で、寄港地での滞在を時間ギリギリまで楽しんだため、船内アスレチックやスライダーといった施設を実際に利用できなかった点は心残りであり、次回訪れる機会があればぜひ体験したいと感じている。船内は広く、構造も複雑であるため、方向感覚をつかむまでに時間がかかり、エレベーターが前後二か所に分かれている点についても、初めは移動が難しく感じられた。また、屋上エリアへの導線が分かりにくく、Sky Lounge に到達するまでに苦勞した。
14. どこを見ても綺麗で、キラキラしていてよかった。ただ、広すぎて場所が分からないことがほとんどで、しょうがないことではあるが、困った。体育館？のような運動出来る施設が思っているより狭かった。もう少し広かったら複数グループが同時に遊べたりするのかなと思った。
15. 最初に交流会を行った体育スペースをはじめ、アスレチックや卓球、プールなど遊びの面がすごく充実していた。しかし、アスレチックや体育スペースは夕方までと時間が短く、利用できなかった施設が多かった。プロムナードを歩いているときに自分が船にいることをすごく実感したのを覚えている。
16. LED スクリーンの映像が圧巻なプロムナードは、船内の煌びやかさを象徴する素晴らしい空間であった。船体があまりに大きく最初は迷うこともあった。ラウンジやプールなど、場所ごとに異なる雰囲気が楽しめるレイアウトは移動の度にわくわくした。特に、海を間近に感じられるデッキと、豪華な内装の対比が印象に残っている。移動そのものが探検のように楽しめる設計

は、飽きることのない船上生活を実現する重要な要素であると感じた

17.クルーズ船の船内については、高級感溢れる雰囲気、体育館、ゲームセンター、ジム、バー、スパ、プールなど、様々な種類の施設があり、一つの町を形成できるような充実さであった。プロムナードについては、輝かしいものであった。屋上のアスレチックの体験は非常に面白く、オススメのスポットとなった。

"船内サービス(ソフト)の感想

- ①「レストラン・カフェ・バーでのメニューについて」,
- ②「レストラン・カフェ・バーでのサービスについて」,
- ③「キャビン清掃、ホテルレセプションについて」,
- ④「カジノにおける接客サービスクオリティー・雰囲気について」

- 1.: レストランやカフェのメニューはバリエーションが豊富で、毎日異なる料理を楽しめる点を魅力と感じた。サービス面ではスタッフが常に笑顔で対応しており、注文や案内がスムーズで快適に過ごせた。キャビン清掃も丁寧で、毎日気持ちよく部屋に戻ることができた。カジノは活気があり、非日常感を味わえる空間として楽しめた。
- 2.: ①メニューは一般的なものばかりだった。特にこれは美味しいというのも正直なかったのかもしれない。②一度クレジットの切り間違いがあったり、ウェイターが話を聞いてなかったりすることもあったので、そこは気にする人は気にすると思う。③ミニバーが部屋によっては閉まったり、最後まで開いていたり部屋によって違っていただけに聞いた。飲み物を冷やしていただけに、その違いがあったのはちょっと残念だった。④今回はカジノに行かなかった。客層なのかもしれないが、別な船の方がワイワイしている雰囲気があった。みんな静かだったと思う。でも、一度は経験した方が良く思う。
- 3.: レストランやバーのメニューは充実していて、ビュッフェレストランでは日替わりで違うメニューもあるので飽きずに楽しめると思った。しかし、カトラリーは少し汚れが残っていたり、見栄えが悪いなと思った料理もあつたりしたので改善してほしいなと思った。スタッフの対応も前回乗ったときより素っ気ないなどあんまり良くないなと感じた。キャビン清掃は毎回きれいに施されていたが、たまにタオルがきれいではないときがあった。カジノは外国でしかできないイメージがあり、日本人があまりいないように感じた。
4. レストランサービスにおいて水が有料である点については、やや不便さを感じ

じた。私は以前に乗船した経験があったため、事前に対策を講じることができたが、初めてクルーズに参加する乗客にとっては、水が無料で提供されないという点は戸惑いや不満につながりやすいのではないかとと思われる。特に、日本では飲食店で水が無料提供されることが一般的であるため、日本人乗客にとっては文化的なギャップを感じやすい部分であると考えた。また、こちら側にも非があることは理解しているものの、レストランの利用時間が終了間際になると、まだ食事をしている途中であっても料理が下げられてしまう場面があり、その点については少し残念に感じた。多くの乗客を限られた時間内で対応する必要がある大型クルーズ船の運営上、やむを得ない対応であることは理解できるが、乗客にとってはせっかくの食事の時間が慌ただしい印象になってしまう可能性もあると感じた。さらに、今回提供された食事メニューが、前回乗船時とほぼ同一であった点についても印象に残った。初めて乗船する乗客にとっては十分に満足度の高い内容である一方で、リピーターの視点から見ると、新鮮味に欠け、やや物足りなさを感じる可能性があるのではないかと考えた。

5.1. ビュッフェメニューは非常に種類が豊富で、どれも美味しかったです。サンドイッチが大好きなので、毎日食べています。他の料理を試す機会はほとんどありません。メニューは日替わりなので、飽きることはほとんどありません。ただし、夜のレストランのサービスは時々かなり遅く、料理も塩辛い時があります。ビュッフェほど良くはないと思います。2. 接客態度は良いですが、テーブルの片付けが遅れることが多く、他のお客様が食事を終えているにもかかわらず、ピーク時には席を探すのに 30 分以上もかかりました。お客様が食事を終えた後すぐにテーブルを片付けるスタッフが足りないように感じました。3. 部屋の清掃サービスには満足しました。ホテルのフロントもとても親切で、入国書類に関する質問にも親切に答えてくれました。カジノには行かなかったのですが、それについては特に意見はありません。

6. レストランでは、毎晩提供されるアラカルトのコースメニューを楽しみ、ほとんどすべての料理を試します。料理はどれも美味しく満足度が高いですが、気軽に利用でき、種類も豊富なビュッフェが特にお気に入りです。レストランやカフェ、バーでのサービスは丁寧で、スタッフの対応も親切に感じます。キャビン清掃は行き届いており、レセプションでも安心して相談できます。カジノは初めての体験ですが、雰囲気を楽しめる良い機会になります。

7.①レストランは円形の卓でいろんな人と会話ができて楽しかった。また、コースが決まっているのではなく自分で食べたいのを選ぶのがありがたかつ

た。私は全てのご飯を食べたかったので友人と奇数・偶数に分けて頼み全ての料理を食べたのが思いでに残っている。特にロブスターがぷりぷりで美味しかった。②一方で、学生はなめられているのか頼んでもこない商品もあったがそれもそれで楽しめた。③部屋に戻った時にタオルやベッドメイクがされており清掃に関しては良かった。④クルーズに乗る前からカジノが楽しみだった。実際行くと異世界で自分で勝負やディーラーさんとの勝負を楽しめた。負けたけどそれも思い出になった。

8. 船内サービスについて、まず①レストラン・カフェ・バーのメニューは選択肢が豊富で、連日利用しても飽きにくく、時間帯や気分に応じて楽しめる点が魅力である。②サービス面では、スタッフの対応が丁寧かつ迅速で、混雑時でも落ち着いた接客が保たれており、快適に利用できている。③キャビン清掃は常に行き届いており、ホテルレセプションも案内が分かりやすく、安心感を持って船内生活を送れている。④カジノは初めてでも入りやすい雰囲気、船内ならではの非日常的な体験として良いアクセントになっている。

9. ①種類豊富でよかった。しかし、ビュッフェが時間帯によって種類が少ないので少し残念ではあった。②大体よかったが、レストランのウェ이터の1人が、こちらの注文した料理を全く持ってきてくれなかった。③綺麗で、とても良かった。④すごく楽しかった。

10. ①和洋中すべて楽しむことができ、日本食を恋しくなることがなかった。毎日異なるメニューで見ただけで楽しいと感じた。②英語がわからなくても丁寧に説明してくれたり、身振り手振りを使ってわかるようにしてくれてとても助かった。③常に清潔が保たれていた。部屋の中を出入りしていたことは驚いたが、すべてにおいて対応が早かった。④完全な異空間でとても新鮮だった。様々な言語が飛び交っていて、あまり理解することができず少し怖いと感じた。ディーラーがいる場所にはびびって行くことができなかったため次行く機会があったら、挑戦してみたい。

11. ①レストランのメニューは毎日内容が変わるため、食事の時間そのものが楽しみとなっていた。多国籍料理を味わえる点も魅力的であり、クルーズならではの食体験であると感じている。②サービス面では注文した料理が届かなかったり、頼んでいないものが運ばれてきたりする場面もあり、日本とは異なる対応に戸惑うこともあった。③キャビン清掃は知らない間に複数回入室されていた点には驚きを感じた。④カジノについては映画やドラマでしか見たことがなかったため、見学するだけでも非日常的で非常に印象に残った。

- 12."①レストランでは毎日コース料理がでて、自分が好きなものや食べたいものを選ぶシステムが楽しかった。②カトラリーが足りなかったら、すぐに対応してくれる点がよかった。初心者でも気軽に楽しめ、気分転換に最適な空間だと感じている。③毎日、ベッドのシーツを取り替えてくれて、ゴミも片づけてくれた。④初めての体験だったが、入りやすい雰囲気、非日常感を楽しめた。勝ち負け以上に、船旅の思い出として印象に残っている。"
- 13.①ディナーでは毎日異なるメニューが提供され、内容を確認すること自体が楽しみの一つであった。朝食についても、レストランに加えてビュッフェ形式など複数の選択肢があり、幅広いメニューを楽しむことができた。②レストランでのサービスについては、ディナー時に担当クルーによる配膳ミスが頻発し、訂正時の対応にも配慮が感じられず、不快に思う場面があった。一方で、食事に行われる小規模なショーは楽しかったが、船酔いの状態での鑑賞となり、体調面ではやや負担に感じた。③キャビン清掃については、船内全体が清潔に保たれており、快適に過ごすことができた。ただし、部屋からの電話対応やホテルレセプションでは、日本語での意思疎通に時間を要する場面があり、言語面での難しさを感じた。④カジノについては非常に楽しめる空間であり、ディーラーを介さないルーレットなどの機械式ゲームを体験した。勝敗に関わらず続けてしまう要素が強く、ギャンブルの危うさも実感した。クルーズカードで手軽に利用できる分、事前に自分なりの利用上限を決めておく必要性を感じた。
- 14.①レストランにしか行っていないが、メニュー数も豊富で美味しかったし楽しかった。②レストランで担当してくれるスタッフによっては、頼んでいない料理がきたり逆に頼んだのにその料理が来ないことも普通にあり、また提供スピードにもばらつきがあったりもした。③毎日綺麗にしてくださって嬉しかった。④カジノはやっていない。
- 15.①レストランやバーはメニューが豊富で、好き嫌いが多いため、食べられる料理があるか不安だったが、多くの種類の中から選ぶことができ、食事を楽しむことができた。最終日に日本人の船員の方が歌を披露していたのがすごく良く、印象に残っている。②レストランは、テーブルに大人がいないと料理の提供スピードに差があることを実感した。③毎日キャビンが綺麗に清掃されていた。タオルも取り替えてあり、快適だった。④カジノは雰囲気だけを楽しんだ。実際に体験はしていないが、見ることはできたのは貴重な経験だったと感じている。

16.①ジャンフィリップのチョコレートが美味しかった。私は、フランスのブランドのチョコレートが好きなので期待していた。フィリングが単独でもしっかりしつつ、周りのシンプルなシェルの邪魔もしない、華やかな味だった。②ディナー時、タルトタタンの美味しさに感動していると、スタッフが機転を利かせて追加を持ってきてくれた。本来のルールを超えた温かい配慮は、マニュアルを超えたホスピタリティを感じた。③客室清掃では毎日のタオル交換や備品の補充が徹底されており、ストレスなく快適な船内生活を送ることができた。レセプションでは、困り事があった時に相談し、解決していただく機会が多かった。日本語で対応できるので安心した。④行かなかった。

17.①メニューの種類については、多すぎることもなく、選びやすかった。チョコレートのお店については、様々なドリンクがあり、選ぶことを楽しむことができた。②サービスについては、レストランで、一緒にテーブルを囲む人が誰であるかにより、対応が変わったのが新鮮であった。学生だけの時には、料理を手渡しで渡されることもあり、驚いた。基本的には、親切で、タイミングもよく、配膳していただいたり、フランクな雰囲気をもとめていて、親しみやすかった。カフェでも、基本的に明るく接客していただいて、気持ちよかった。③キャビンの清掃については、1日目のみ清掃を利用したが、それ以降は、利用しなかった。1日目に新聞が気づいたら部屋に置かれていることに少し驚いたからである。ホテルレセプションについては、日本語での対応も可能で、悩んでいた時には、非常に助けになった。④カジノについては、興味はあったが、金銭面に余裕がなく、利用しなかった。

"船内の SHOW やエンターテイメントの感想

【船内鑑賞イベント全般、プロダクションショー】""

- 1.船内ショーはどれも完成度が高く、特にミュージカルは迫力と演出の巧みさが際立っていた。無料でこれほどのクオリティのショーを楽しめる点はクルーズならではの魅力と感じた。有料ショーは観覧しなかったが、無料のものだけでもエンターテイメントの幅が広く、滞在中に飽きることがなかった。
- 2.船内のショーは無料でも十分楽しめたと思う。規模感で言えば、ロイヤルカリビアンの方が派手で、コスタの方がイタリア色強めではあるが、キャストが近くで見られる良さがあった。行かなくてもいいやみたいな気分できて、付き合いで行ったとしても、行ったら楽しかったと思える内容だったと思う。私は3日行ったが、どれも楽しかった。MSCのショーは面白いので是非おすすめしたい

- 3.プロダクションショーは初日と最終日に鑑賞した。日本人のマジシャンのショーは少しクオリティが低く、あまり楽しめなかった。最終日は3日間の集大成のようなショーで、歌は素晴らしいと思ったが、ダンスは一人一人のスキルは高いと思ったが、一体感がなくあまり記憶に起こるものではないと感じた。
- 4.エンターテインメントショーについては、少し距離を空けた席と最前列の両方から鑑賞する機会があり、その見え方や感じ方が大きく異なることに強い印象を受けた。席の位置によって、同じショーであっても全く別の体験になるという点は、クルーズ船ならではのエンターテインメントの奥深さを感じさせるものであった。まず、客席の後方や中ほどから鑑賞した際には、ステージ全体を俯瞰する形で見ることができ、照明演出や舞台装置、パフォーマー同士の動きの連携など、ショー全体の構成や流れを把握しやすかった。特に、ストーリー性のある演目においては、演出の意図が分かりやすく、物語として楽しむには、ある程度距離を取った席の方が適しているのではないかと感じた。ショーを一つの作品として味わうという点では、全体像を見渡せる位置に大きな魅力があるといえる。一方で、最前列の中央という非常に近い距離から鑑賞したショーは、これまでとは全く異なる迫力を持っていた。遠くから見ると余裕のある表情で演技しているように見えるパフォーマーが、実際には一瞬一瞬に集中し、真剣な眼差しで演技に臨んでいる様子がはっきりと伝わってきた。息遣いや細かな表情の変化、体の緊張感までもが感じられ、ステージと客席の境界がほとんど感じられないほどの臨場感があった。こうした要素が、ショーに対する没入感を一層高め、単なる鑑賞ではなく、パフォーマンスを共に体感しているような感覚を味わうことができた。この経験を通じて、エンターテインメントショーは座席の位置によって楽しみ方が大きく変わるものであり、全体の完成度を味わう楽しさと、演者の熱量を間近で感じる楽しさの両方が存在することを実感した。クルーズ船内で提供されるショーは、何度見ても異なる魅力を発見できる点において、非常に質の高いエンターテインメントであると感じた。
- 5.無料のショーを2つ観ましたが、最終日は人気が高すぎて予約できませんでした。他の場所で観るとかなり高額になるショーなので、本当に感動しました。とてもプロフェッショナルで、本当に素晴らしい俳優やアーティストが出演していました。このショーはあらゆる年齢層の観客に受け入れられると思います。特に日本人司会者の方はとても魅力的で素敵でした。
- 6.船内で行われるショーやエンターテインメントは、有料・無料を問わず、どれも

楽しく鑑賞できます。プロダクションショーは演出やパフォーマンスの完成度が高く、見応えがあります。有料ショーも特別感があり、時間を忘れて楽しめるため、おすすめできるエンターテインメントです。

7. 船内のショーは全て見たがジャーニーとクラブディスコが特に良かった。今までミュージカルを見ないで生きてきたがこんなにもおもしろいのかと感じた。正直にクルーズの中で一番の思い出に残ったことをあげるならこの2つであるくらいの衝撃をうけた。圧巻のパフォーマンスはものすごい感動した。特にクラブディスコは時間があっという間に過ぎたのでおすすめはクラブディスコである。
8. 船内の SHOW やエンターテインメントは全体的に完成度が高く、移動時間を忘れさせるほど充実していると感じている。プロダクションショーは演出や照明、出演者のパフォーマンスの質が高く、本格的な舞台を鑑賞しているような満足感がある。また、船内鑑賞イベントも時間帯ごとに多様に用意されており、その日の予定や気分に合わせて気軽に参加できる点が魅力である。有料ショーについても特別感があり、船旅ならではの非日常を強く実感できる内容である。
9. 特になし。
10. 最終日の SHOW しか鑑賞していないが、すごく楽しく時間があっという間に感じた。SHOW の人物に推しが出来る気持ちが少し分かった。周りの友人は初日から最終日まで皆勤賞で、ショーの魅力に引き込まれていた。ジャンルもバラバラで毎日観ても飽きず楽しめそうだった。
11. 船内で行われるショーは完成度が非常に高く、プロの公演として十分な見応えがあった。歌やダンス、演出の迫力に引き込まれ、毎晩楽しみにする時間となっていた。また、毎日異なる内容のショーが用意されているため、連日参加しても飽きることがなく、船内生活の大きな楽しみの一つであった。クルーズならではのエンターテインメントとして、多くの乗客におすすめできる要素であると感じた。
12. 船内のエンターテインメントは、非日常空間を一層引き立てる特別な体験をすることができた。普段見ることができない、本格的なショーや音楽の演出が多く、年齢や国籍を問わず楽しめる空間だった。船の中にいるという感覚はなく、クルーズ船の思い出として、強く印象に残った。
13. 船内の SHOW やエンターテインメントについては、2日目から4日目にかけて毎日鑑賞した。特に2日目に鑑賞した「ジャーニー」は、物語性のある構成に歌やダンスが組み合わさっており、非常に完成度が高く印象に残った。

この公演をきっかけに、以降の 3 日目、4 日目のショーも継続して鑑賞するようになり、出演者の表現力や一体感のあるステージに強く惹かれていった。同じ出演者が多く出演していたため、日を追うごとに親しみが増し、ショーをより深く楽しめるようになった点も魅力である。4 日目の公演後には出演者との撮影機会もあり、観客との距離が近いエンターテインメントであると感じた。ばっちり写真も撮っていただいた。「ジャーニー」ははじめて観たショーだったからかもしれないが、ワクワクが止まらなかった。特におすすめできるショーである。

14. 毎日内容が違って、ちゃんと毎日楽しめたのが良かった。有料ショーには行けなかったが、無料のショーでも十分満足出来る内容になっていた。個人的には、2 日目のダンスと歌が融合した物語調になっているミュージカルが面白かった。
15. 毎日夜の SHOW に参加した感想として、本当に毎日見て良かったと心から思った。最初は最終日だけ参加する予定だったが、毎日違う SHOW が開催されているため、毎日参加した。2 日目の SHOW が 1 番面白く、感動し、また見たいと思った。また、最終日は前列で見ることができ、ダンサーの方の熱量や表情を身近に感じる事ができ、遠くから見るのとはまた違った良さがあったため、席によっても楽しみ方が変わることを実感した。
16. ショーの中では「ジャーニー」が最も印象に残った。揺れる船上であるにも関わらず、ダンサーがピルエットを披露しており、その体幹の強さとプロ意識に圧倒された。最終日の有料ショーは時間の都合で見送ったが、後日見た写真のクオリティが高く、次回乗船時は必ず鑑賞したいと思った。エンターテインメントが単なる余興ではなく、船旅の質を高める重要なものであるのだと感じた。
17. SHOW については、2 日目の Journey がとても印象的である。様々な国の伝統的な歌や踊りを見ることができ、とてもおもしろかった。歌や踊りについてはとても質が高いと感じ、ミュージカルのような劇であったけれど、最初から最後まで、驚きと感動の連続であった。とても貴重な体験となった。

"船内の施設での体験に関する感想

(ジム・スライダー・アスレチックなど)や体験型イベント(ダンス PARTY・ビンゴなど))

1. ジムやスライダーなどの施設が想像以上に充実しており、船上でこれほど多様なアクティビティを楽しめることに驚いている。ダンスパーティーやビン

ゴ、数独などの多数のコンテンツが用意されており、参加者同士の交流の場としても有意義と感じた。特に夕食やショーの後のダンスイベントは雰囲気良く、気軽に参加でき、乗客、クルーの一体感を体感できる点が魅力と感じた。

2. ウォータースライダーに乗った。クルーズなのにウォータースライダーが楽しめるのはとても良かった。それなりの速度と迫力もあり、何度も乗った。しかしながらもう少し暖かい時期に乗りたかった。ホワイトパーティーには少し参加した。ちゃんとは参加していないが、見ているだけでも楽しかった。クルーズはあまり人の目を気にせず弾けることができる場所なので、そういうところが良いと思う。
3. 乗る前から楽しみにしていたウォータースライダーは前回 1 つしか動いていなかったの得心残りがあり、今回は 2 つとも体験ができて満足できた。速さと勢いが違うウォータースライダーで、なかなか船に乗ってできる体験ではないと思ったのでできて良かった。また、ダンス PARTY ではホワイトパーティーとゴールデンパーティーに参加し、自治体の人と一緒に踊りまくって本当に楽しかった。郷ひろみの曲や APT など国境を越えてみんなで盛り上げられる曲では、初めて会った人とも交流することができた。
4. 今回のクルーズでは、ほぼ毎朝トレーニングルームを利用しており、船内施設を日常的に使う立場から多くの気づきを得ることができた。クルーズ中であつても生活リズムを崩さず、体を動かす時間を確保できた点は非常に良かったと感じている。特に印象的だったのは、トレーニングルームにサウナが併設されていた点である。運動後にそのままサウナを利用できるため、リフレッシュの面で非常に充実した設備であると感じた。一般的に、船内のスパエリアや室内ジャグジーは利用者が多く、時間帯によっては混雑することもあるが、トレーニングルーム内のサウナは比較的用户数が少なく、落ち着いた環境で使用できた点が特に魅力的であった。静かな空間で自分のペースを保ちながら利用できるため、心身ともにリフレッシュできる貴重な時間となっていた。一方で、トレーニングジムの利用可能時間については、やや不便さを感じる場面もあった。利用できる時間帯が比較的に限られており、日中は寄港地観光に出かけることが多いため、実際に利用したいと感じる早朝や深夜の時間帯にジムが開いていないことがあった。特に、朝の静かな時間帯や一日の終わりに体を動かしたい利用者にとっては、選択肢が狭まってしまう点が惜しいと感じた。クルーズという非日常の空間においても、健康意識の高い乗客や日課として運動を取り入れている人にとって、トレー

ニング施設の利便性は満足度に直結する要素であると考えられる。そのため、利用時間の柔軟化や、時間帯ごとの混雑状況に応じた運営が行われれば、さらに多くの乗客にとって使いやすい施設になるのではないかと感じた。このように、ベリッシマのトレーニングルームは設備面では非常に充実している一方で、運用面において改善の余地も感じられた。

5. ジムには数回の利用でしたが、素晴らしい景色と、いつでも質問できるパーソナルトレーナーのおかげで、本当に気に入っています。いつでも通えるので、健康的な食事と体型維持を同時に実現できる理想的な環境だと思います。ダンスクラスにも参加する予定でしたが、予定が変わって参加できませんでした。全体的に見て、幅広い年齢層向けの選択肢が豊富にあります。
6. 船内の体験型施設の中では、ウォータースライダーが特に刺激的で、何度も楽しめる点が印象的です。体を動かしながら気軽に参加できるため、気分転換にもなります。また、体験型イベントの中ではホワイトパーティーが最もお気に入り、参加者同士が一体となって盛り上げられる雰囲気が魅力的でした。初めての参加でも楽しめるため、ぜひおすすめしたいイベントです。
7. 体験型イベントにはあまり参加してないが卓球や手で操作するサッカーゲームのトーナメントに出場した。このトーナメントに関しては人が集まらず2チームしかいなかった。その相手は中国の小学生くらいの人たちで気づいたら試合ではなく国際交流をしたのがおもしろかった。体育館のようなところでも知らない人たちとサッカーとバスケットボールができたので良かった。
8. 船内の体験について、体験型イベントではダンスパーティーに参加し、音楽と一体感のある雰囲気の中で非常に楽しい時間を過ごした。初参加でも入りやすく、船内での交流を深められる点が魅力であり、特におすすめできるイベントであった。ジムについては器具やマシンの種類が多いとは言えず、その点はやや物足りなさを感じたが、基本的なトレーニングを行うには十分な設備は整っており、軽い運動には適していたと感じた。
9. ジムは綺麗でよかったが、もう少しマシンの種類があるとよい。
10. すべて本格的だった。時間の関係で試すことはできなかったが、次機会があったら必ずやりたいと感じた。ホワイトパーティーや最終日のゴールデンパーティーが一番印象に残った。ただ、音楽に乗せて踊るだけでなく、周りの皆と一緒に楽しめる空間がすごくよかった。最後には皆で列車をつくって、ハイタッチしあったことがすごく思い出に残っている。

11. アスレチックは終了時間が早く、十分に楽しむことができなかった点が残念だった。一方、ダンスパーティーでは国籍や年齢を問わず多くの乗客が参加しており、言葉が完全に通じなくても音楽や雰囲気を通して交流できる楽しさを実感した。ダンスパーティーは、クルーズならではの一体感を味わえるおすすめの体験である。
12. "・ダンスパーティー クルーズ船で行われた体験型イベントのダンスパーティーは、乗客同士の距離が一気に縮まる楽しい時間だった。船内のスタッフも一緒に盛り上げてくれる雰囲気が非日常感をより強く感じさせた。年齢やダンス経験者じゃなくても誰でも参加することができたのでとても楽しかった。"
13. 船内の体験型イベントとして、イタリアンパーティーおよびゴールデンパーティーに参加している（ホワイトパーティーについては船酔いによる体調不良のため参加できなかった）。特にゴールデンパーティーでは、開始から終了までダンスに参加し、汗をかくほど体力を消耗したが、それ以上に高い満足感を得られる体験であった。イベント終盤には、参加者全員で列になって船内を走り回る場面があり、初対面の参加者同士でも自然にハイタッチや笑顔を交わすなど、強い一体感が生まれていた。普段の生活ではあまり見せることのない自分自身の一面が解放されていく感覚があり、非日常空間ならではの魅力を実感した。イタリアンパーティーおよびゴールデンパーティーはいずれも、参加者同士の交流を深める点でおすすめできるイベントである。
14. スライダーやアスレチックを楽しむことは出来なかった。意外と営業時間が短いため、寄港地を楽しんで船に戻ってくると大体毎日終了していた。ダンスパーティーは、別のところでも述べたように、その空間にただいて笑顔になってしまうくらい楽しく皆さんがダンスを、その空間を楽しんでいて凄く良い時間だった。
15. ダンス PARTY は、乗船客全員が恥じらいや周りの目を気にせず踊って楽しんでいるのが印象に残っている。ヘッドホンをつけて各自で踊ったり、マネをして踊ったり正解がないからこそ、自由に誰でも楽しめる点が一番の魅力であると感じた。最後は、全員が知り合いかのように列になってハイタッチをして全力で楽しんでいたのがすごく良かった。
16. 日の出のタイミングでジムに行って自転車を漕いだ。窓が大きかったので綺麗に見れた。部屋に在る間は、数独をした。無心で取り組めて、難易度が高かったので飽きることなく最終日まで過ごせた。スパの無料抽選会に参

加した。部屋番号を書くだけだったので簡単に参加できた。アスレチックは、体験して良かったと思った。海の上を歩いているみたいな気持ちで、気持ち良かった。今度はしっかり足場を使って静かに進みたいと思う。

17. ジムは少し活用した。様々な器具があり、ジムとしてとても充実していた。アスレチックについては、船の上でこんなアクティビティができることに驚いたと同時に、とても楽しむことができた。体験としては、ゲームのレンタルが行われており、その中でも、数独はとても楽しかった。難易度が高く、携帯電話が使うことができない船上では、貴重だった。

乗船・下船港(那覇)での感想

(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応の感想、観光地としての魅力など)

1. 那覇港での下船時はそれなりに列が長くなっていたが、乗船・下船ともに総じて想像よりもスムーズであった。スタッフの案内も丁寧で、混雑を感じることなく移動できた。観光地としても魅力が高く、国際通りなどからタクシーで数分と港周辺へのアクセスが良いため、短時間でも楽しめる環境が整っていると感じた。
2. 下船時にタクシー配車アプリを使ったがすぐに来たので良かった。那覇だからタクシーの数も多いのだと思うが、是非お勧めしたい。1月ということもあり、風が強くて少し肌寒かったが、那覇市内のホテルやキャbinは安く、またこのぐらいで泊まれるなら来たいと思った。那覇の乗船時は時間が早いこともあってスムーズだったが、何せ風が強かった。
3. ターミナルまでは無理すれば歩いても行けるが、い持つもあるので市街地からならタクシーは必須だと感じた。下船後はタクシーを予約していたため、スムーズに移動できたが、タクシーの待機列が長蛇の列だったため、予約するべきだなと思った。那覇では国際通りを中心に観光し、ブルーシールのアイスを食べたり、郷土料理が食べられる居酒屋に行ったりして楽しむことができた。
4. "クルーズターミナルについては、立地の面でやや不便さを感じた。ターミナルは市街地から離れた場所に位置しており、周辺には公共交通機関がほとんど整備されていないため、徒歩や個人手段での移動が前提となっている印象を受けた。クルーズ船の乗客は大きな荷物を持って移動する場合も多く、そうした状況を考えると、初めて訪れる観光客にとっては利用しづらい立地であると感じた。また、ターミナル周辺には観光客が時間を過ごせるよう

な商業施設や飲食店、観光案内所などがほとんどなく、あくまで「移動のための施設」としての役割に特化しているように思われた。クルーズ船の出入港という機能面では十分である一方で、観光拠点としての魅力や滞在価値は限定的であり、乗下船前後の時間を有効に活用しにくい点が課題であると感じた。一方で、県庁前や国際通りまで足を延ばすと、街の雰囲気は一変し、多くの観光客で賑わうエリアが広がっている。そこには、沖縄らしい土産物店や飲食店が立ち並び、観光客にとって非常に魅力的な空間が形成されているため、クルーズターミナルと市内中心部を結ぶシャトルバスなどが運行されていれば、利便性は大きく向上するのではないかと感じた。こうした交通手段が整備されることで、乗客の消費が促進され、地域経済への波及効果も高まると考えられる。また、那覇市内でビーチに行こうと考えた際、市内に一般的に利用できるビーチが一か所しかないことを知り、沖縄はビーチが多いというイメージを持っていただけに、意外性を感じた。リゾート地としての印象が強い沖縄であっても、都市部においては自然環境と市街地開発とのバランスが取られており、観光資源の分布には偏りがあることを実感した。このような経験を通じて、クルーズ観光においては、港湾施設単体の機能だけでなく、市街地との接続性や観光動線の設計が、旅行者の満足度に大きく影響することを改めて認識した。ターミナルを起点とした交通整備や周辺環境の充実が進めば、那覇港はより魅力的なクルーズ拠点になるのではないかと感じた。”

5. 駅と入国審査場での対応は迅速で親切で、とても満足しました。沖縄の首都なので、他の場所よりも設備が充実しているように感じました。一番良かったのは、地元の果物市場に行ったことです。大好きなトロピカルフルーツがたくさん見つかりました。ただ、外観は立派ですが、奥の建物はかなり古びていて、少し老朽化しているように感じました。
6. 那覇港は風が強い日でしたが、全体として乗船・下船の流れは分かりやすく、留学生である私でもスムーズに対応できます。スタッフの案内も丁寧で、初めてでも安心して利用できます。一方で、下船時には待ち時間がやや長く感じられた点は改善の余地があると感じますが、観光地としての那覇の魅力も含め、全体的には好印象です。
7. ターミナルでは大勢の方がいる中スムーズな対応をしていただき助かった。観光地としての魅力はものすごくあると感じた。実際に、国際通りや民謡居酒屋、A&W や首里城に行った。特に前泊した時に行った民謡居酒屋が居酒屋に行った中で過去一楽しかった。歌で知らない人と繋がれて沖縄の温

かさを感じた。また首里城の近くにある守礼門など歴史的建造物を見れるのも魅力である。

8. 乗船・下船港である那覇の港・ターミナルは、施設が整備されており、初めての利用でも動線が分かりやすいと感じた。乗船時は案内や誘導が丁寧で、手続きも比較的スムーズに進み、安心して乗船することができた。下船時も混乱は少なく、最後まで落ち着いた対応が印象に残った。また、那覇は周辺に観光資源が多く、クルーズの前後で市内観光や食事を楽しめる点も魅力であり、出発地・到着地として非常に適した場所であった。
9. 全体的に良かったと思う。特に不便をすることはなかった。
10. 乗船・下船時対応については問題ないと感じた。日本人スタッフをあまり見かけなかったのが少し不安だったが大丈夫だった。那覇は大好きな旅行先のひとつであり、魅力が沢山ある。ご飯もおいしく、人があたたかい。メインの観光地である国際通りからあまり時間がかからず、ターミナルに行けたのがよかった。
11. 那覇港については、港までのアクセスや案内表示がやや分かりにくく、初めて訪れる人にとっては不便に感じる部分があった。一方で、沖縄という観光地としての魅力は非常に高く、到着した瞬間から旅行気分を味わえる環境であった。夏のイメージが強い沖縄であるが、冬の時期は気温が穏やかで過ごしやすく、観光には非常に適していると感じた。季節による魅力の違いを再認識する機会となった。
12. 那覇港のターミナル、誘導回路などがしっかりしていたので、初めてでも迷わず行動できたのが良かった。乗船・下船のスタッフ対応も丁寧で、案内がしっかりしていたので安心して移動できた。空港や国際通りからも 20 分ほどで移動でき、クルーズ前後も楽しめる場所だと感じた。
13. 那覇港での乗船および下船は動線が分かりやすく、スタッフの対応も丁寧で、全体としてスムーズに行われていると感じている。港まではタクシーでの移動が必要ではあるものの、国際通りが近く、乗船前後に市街地観光を組み合わせやすい立地である点は魅力的である。当初は最終日に那覇市内を観光する予定であったが、強風の影響により予定を変更し、朝の便で帰宅することとなったため、観光地としての魅力を実際に体験する機会は限られてしまった。しかし、事前や事後に SNS などで情報を調べる中で、訪れてみたい場所が多く見受けられ、十分に観光できなかったことに対して心

残りが残っている。再訪したいと感じさせる場所である。

14. 初日の乗船前にタクシーで向かった那覇第二クルーズバースは、凄く広い敷地が設けられていたように感じた。那覇では国際通りに行ったが、那覇におけるメインの観光地であることから、賑わっていた。乗船時の対応に関して、MSC ベリッシマの海外スタッフの方々が快く迎え入れてくださったのを覚えている。
15. 港の荷物検査場がビニールハウスのような造りだったことに驚いた。港から市街地までは徒歩で 40 分かかるため、歩くのが大変だった。そのため、タクシー列が行列になっていたことを覚えている。下船後に空港に向かうタクシー列で、6 人で並んだため、優遇して大きいタクシーに乗せていただいて、スタッフの方の対応がすごく良かった。
16. 強風の中での待機となったが、テント内は落ち着いて過ごせた。乗船時に温かいお茶の提供があり、寒さの中で心温まる「おもてなし」の重要性を実感した。早めに行動したため混雑を回避でき、スムーズに乗船できた。また、下船時は事前にバスを予約していたため、空港まで迷わず向かえた。港の施設評価だけでなく、事前の準備やちょっとしたサービスが、旅の始まりと終わりの印象を大きく左右することを身をもって学んだ。
17. ターミナルについては、誘導があり、思っていたよりもスムーズに乗船できた。那覇では、空港の中で、沖縄料理を食べた。空港に着いてすぐに沖縄を感じられるのはとてもいいと思った。バスや、電車、タクシーもあり、交通には困らないため、沖縄に着いてから、スムーズに観光することができることが魅力だと感じた。

寄港地（石垣島）での感想

（港・ターミナルの施設評価、観光地としての魅力など）

1. 石垣島では電動キックボードをレンタルし、石垣港から川平湾まで島の風景を楽しみながら走行した体験が非常に印象的である。道中では石垣牛のステーキ店に立ち寄り、地元の味覚を堪能したほか、バナナ公園の海が見える展望台にも寄り、石垣島ならではの自然の美しさを強く感じた。入港の対応もスムーズで、観光地としての魅力と客船利用時の利便性が高い寄港地であると実感している。
2. 石垣島のクルーズターミナルから街へは歩くと 40 分程かかるので大変だった。しかし、ソウルフードやローカルなものが沢山あり、お買い物でついつ

い買いすぎてしまった。時間があれば離島に行ければ良かったが今回は諦めた。石垣はグルメ旅として楽しめるので、その場のグルメを堪能することがお勧めである。

3. 石垣島では東京都職員さんと一緒に離島ターミナルに行って具志堅の像を見に行ったり、アーケード街に行って八重山そばを食べたりした。また、ご当地のショップに行ったり、ゲンキ乳業の牛乳・シェイク・サイダーを飲み比べたりして石垣島を堪能することができた。
4. 初めて石垣島を訪れたため、滞在中は中心市街地の散策を行った。中心街には商店街のような通りが広がっており、観光客で非常に賑わっていた。通り沿いには石垣島ならではのお土産を扱う店舗や、郷土料理を提供する飲食店が数多く並び、観光地としての活気を強く感じる事ができた。特に、観光客向けの商品やサービスが充実しており、短時間の滞在でも石垣島の雰囲気を楽しめるよう工夫されている点が印象的であった。一方で、通りを歩いていて目についたのは、ほとんどが観光客の姿であり、地元住民と思われる人の姿はあまり見られなかった。そのため、この中心街は地域住民の日常的な生活の場というよりも、観光客を主な対象とした商業エリアとして機能しているのではないかと感じた。観光に特化している点は利点でもあるが、地域の暮らしや文化が見えにくいという点では、やや物足りなさも感じた。今回の滞在では徒歩圏内で行動していたため、訪れた場所は限られていたが、その範囲での印象としては、宮古島と比較すると観光スポットや見どころがやや少ないように感じてしまった。宮古島では自然景観が比較的近い距離で楽しめたのに対し、石垣島では移動手段が限られることで、魅力的な場所に気軽にアクセスしにくい点が影響しているのではないかと考えられる。
5. 友人と私は教授と一緒に自転車をレンタルし、海岸沿いをサトウキビ畑を通り過ぎ、古い家屋や印象的な中国風の寺院を訪ねました。那覇や宮古と比べると港の近くは印象的でしたが、奥へ進むとかなり寂れていて物悲しい雰囲気でした。港の近くに牛乳やヨーグルト、衣料品を売っている数少ない店だけが魅力だと思います。
6. 石垣島での滞在はとても快適で、寄港地としての満足度が高いと感じます。港から島内への移動はフェリーバスが整備されており、アクセスが非常に分かりやすく便利です。短時間の滞在でも効率よく観光を楽しめるため、石垣島は魅力的な観光地だと強く感じます。
7. 滞在内容は寄港後にフェリーに乗って竹富島に行き、水牛体験をし、竹富

島を散歩して八重山そばを食べた。竹富島は自分の想像していたザ沖縄感があり、竹富島ならではの景観を楽しむことが出来た。また、水牛体験では水牛に引っ張られながらブーゲンビリアを通り竹富島を満喫することができた。石垣島ではないものの魅力度はとても高い観光地である。

8. 寄港地である石垣島では、港から市街地へのアクセスが比較的良く、下船後の移動がしやすいと感じた。港周辺は整備されており、短時間の滞在でも安心して行動できる環境であった。観光地としては、南国らしい自然の景観や落ち着いた街並みが印象的で、歩いているだけでも非日常感を味わうことができた。限られた滞在時間ではあったが、石垣島ならではの雰囲気を感じることができ、クルーズの寄港地として魅力の高い場所であると感じた。
9. 水牛や海、現地の食事などを楽しんだ。すごく新鮮な物ばかりでよかった。
10. 竹富島に行き、水牛に乗る体験をした。近くの家へ行って楽しんだ後、沖縄そばを食べた。風景がとても綺麗で、都会から引っ越してくる人たちの気持ちが分かった。家の周りが石で積まれていたり、三角屋根を実際に自分の目で見るのができてよかった。港から観光地までの距離が少しあり、有料のシャトルバスと行列のタクシーしか交通手段がないことがすこし不便だと感じた。
11. 石垣島ではフェリーを利用して竹富島を訪れた。赤瓦の家屋や石垣に囲まれた街並みは、社会の教科書で学んだ風景そのものであり、実際に目にすることで強い感動を覚えた。観光地でありながら、そこに人々の生活が息づいていることを実感できた点が印象的である。水牛に乗りながらゆったりと集落を巡る時間は、日常を忘れさせてくれるものであり、心身ともにリフレッシュできる貴重な体験となった。
12. 少しだけ港から中心街まで遠いと感じ、タクシーの手配が大変だった。自然が綺麗で、海の色や町の雰囲気から南国に来た感じをしっかりと味わえた。
竹富島までのアクセスもよく、竹富島では水牛に乗ったり集落を歩いたりして、石垣島とはまた違う魅力があった。
13. 石垣島では、港から市街地方面への移動手段としてシャトルバスが用意されていたが、有料であったことやタクシー乗り場が混雑していたことから、結果的に約 40 分程度徒歩で移動することとなった。港からは竹富島へ移動したため、石垣島本島の観光地としての魅力については十分に体験することができていない。一方で、石垣島周辺には複数の離島へ移動できる環境

が整っており、島嶼観光の拠点としての可能性は高いと感じた。ただし、フェリーの本数は限られているため、事前に時刻表を確認しておく必要がある。竹富島では、水牛車に乗ったり、ソーキそばを味わったり、透き通った海を眺めたりする中で、伝統的な沖縄らしさを感じることができ、非常に満足度の高い観光体験であった。また、現地では一般的な配車サービス（Uber）が利用できない場合もあるため、地域で普及している交通手段（DiDi）を事前に調べておくことの重要性を感じた。

14. 石垣島の滞在では、フェリーに乗って竹富島まで行き水牛に乗った。水牛に乗った時にガイドの方が、島の魅力について語ってくれたり、島の伝統的な歌を歌ってくれたりした。時間がゆったり流れている感じがして非日常を味わえて良かった。フェリーは行きも帰りもクルーズ船とは比べ物にならないくらい揺れた。
15. フェリーで竹富島へ行った。水牛乗馬体験、綺麗な海を堪能することができた。観光地としてすごく魅力的で、風景が今でも船名に思い出せる。島の方たちも温かい方ばかりで、また行きたいと思った。サイクリング体験もすごく楽しそうだったが、帰りのフェリーの時間が限られており、できなかったため、少し後悔がある。
16. 徒歩で市街地へ向かったが意外に距離があり、移動手段の選択の重要性を学んだ。そこからフェリーで竹富島へ渡り、教科書で見た伝統的な沖縄の家屋を間近にできたのは、知識が経験に変わる貴重な瞬間であった。天候に恵まれ往復できたが、帰船時間に遅れるリスク管理が甘かった点は反省している。「体験」を重視する一方で、船という時間の制約がある旅において、いかに余裕を持った計画を立てるべきかを学ぶ良い機会となった。竹富島はコンパクトだったので、レンタサイクルで観光地をまわられた。
17. 港から、町に出るまでの道のりが長かった。石垣島では、寄港してからすぐに竹富島へ向かった。竹富島では、自転車をレンタルし、島中を駆け巡った。竹富島では、沖縄らしい町並み、きれいな海を見ることができた。レンタサイクルが充実しており、島の観光にとっても有用であると感じた。八重山そばやじゅーしーのおにぎりを食べ、沖縄料理も食べることができた。

寄港地（基隆）での感想

（港・ターミナルの施設評価、観光地としての魅力など）

1. 基隆では到着後すぐに鉄道で台北へ向かい、台北 101 で鼎泰豊の食事を楽しんだ後、故宮博物館を訪れて台湾の文化に触れる充実した時間を過ごした。帰路は故宮博物館からバスを乗り継いで基隆港へ戻り、台湾らしい街並みや生活の雰囲気を感じながら移動した点が印象的である。他の寄港地と比較すると、入出港にやや時間を要した印象があり、港湾手続きの特性が影響していると感じた。
2. クルーズターミナルから基隆駅までがとても近く、バスでも台北などに行ける。日本ではあの狭い港に大型船が入るのは中々ないだろうが、とても迫力があつた。今回私は台北に行ったが、台湾は食べ物が安くて美味しい。また、台北 101 のショッピングモールはとても充実しており、買い物にはとても良い。私は台湾限定で売られている紅茶を買い、そして楽しんだ。
3. 基隆市内でも東京都職員の方々と一緒に観光をし、夜市・スーパー・薬局・かき氷屋さんに行った。食べたかった魯肉飯と小籠包を食べ、スーパーでローカルなお菓子を買ったり、薬局で台湾限定の化粧品などを買ったりして、ショッピングを楽しんだ。
4. 基隆のクルーズターミナルを見学した際、最も印象に残ったのは、地元の港湾関係者の方がわざわざ専用のバスを手配してくださっていたことである。単なる施設見学にとどまらず、訪問者を最大限もてなそうとする姿勢が強く感じられ、日本ではなかなか見られない対応であったため、大きな驚きを覚えた。この背景には、赤井先生のこれまでのご尽力や人脈による影響力の大きさがあると同時に、台湾の人々が持つ「おもてなし」の文化が深く根付いていることを実感した。形式的な対応ではなく、心から歓迎してくださっているという雰囲気が終始感じられ、非常に温かい印象を受けた。基隆のクルーズターミナル自体も非常に立派で、日本の多くのクルーズターミナルと比較しても、特にハード面の充実度が際立っていると感じた。建物の規模や設備の新しさ、動線の分かりやすさなど、クルーズ客を効率的かつ快適に受け入れるための工夫が随所に見られた点が印象的である。加えて、港の規模としては決して大きいとは言えない基隆港において、クルーズターミナルが二つ整備されているという点にも驚かされた。日本では法律や、用地確保や予算、地域調整などの制約から、同規模の港に複数のターミナルを整備することは容易ではないと考えられ、台湾におけるクルーズ振興への強い意欲を感じることができた。寄港地観光としては、基隆の夜市を訪れたり、タワーに登って街を一望したりと、非常に充実した時間を過ごすことができた。夜市では多種多様な屋台が立ち並び、手頃な価格で本格的な台

湾グルメを味わうことができ、観光客にとって大きな魅力となっていると感じた。日本から地理的にはそれほど遠くない場所にありながら、街並みや交通量、人々の活気などは日本とは大きく異なり、「海外に来た」という実感を強く得ることができた点も印象的である。さらに、基隆には美味しい飲食店が多く、短い寄港時間であっても食や街歩きを十分に楽しめる環境が整っていると感じた。ターミナルの充実度、寄港地観光の多様性、そして人々の温かい対応が一体となり、基隆はクルーズ寄港地として非常に完成度の高い港であると強く感じた。今後、日本の港湾やクルーズ振興を考える上でも、基隆の取り組みや姿勢は大いに参考にすべき事例であると考えられる。

5. 基隆に滞在しながら、まるで日本にいるかのような気分になりました。特に設備の充実ぶりは素晴らしかったです。友人と電車で台北に行き、中正記念堂や台北 101 を訪れ、様々なショッピングを楽しみました。設備は日本と遜色なく、さらに印象的だったのは、レストランのウェイターをはじめ、出会ったほとんどの人が流暢な英語を話せたことです。地元の人々の丁寧さに感謝しています。
6. 基隆での滞在は、想像以上にスムーズで、全体的にとってもリラックスして過ごせました。港やターミナルの設備は分かりやすく、移動もしやすいため、初めて訪れる場所でも安心感があります。市内へのアクセスも良く、観光地として気軽に楽しめる点が基隆の大きな魅力だと感じます。
7. 基隆では寄港した後に基隆の夜市と呼ばれる場所にてお昼ごはんを食べ、基隆を散歩しながら、タクシーに乗って正浜漁港カラフルハウスを見に行きました。個人的には食べ物が日本と全然違うということであまり口には合わなかったという印象がある。観光の面では、お昼にいったが夜市と呼ばれる場所や、山にハリウッドみたいに基隆と書いてあるようなものもあり魅力はあった。
8. 寄港地である基隆では、港・ターミナルの規模は大きく、国際港としての機能性は感じられたが、周辺では独特のにおいが強く、環境面ではやや気になる点があった。観光地としては異文化を感じられる街並みが印象的であり、日本とは異なる雰囲気を経験できた点は興味深かった。一方で、現地で口にした料理については味付けや香りが自分には合わず、食事面では満足度は高くなかった。全体として、海外寄港地ならではの体験はできたものの、好みが分かれる滞在地であると感じた。
9. 少し物価が安く、タクシーに関してはそれをよく実感した。台湾は、夜市など

に行って食事を楽しんだ。

10. 港から町までが一番近く、行動しやすいと感じた。近くにバスターミナルもあり、どこに行くにも便利だと感じた。台北にいて服や雑貨をみてまわった。小籠包を食べて、タピオカを飲んだ。一番時間が多くあったこともあり、満足に回ることができた。ターミナルで両替もできて、とてもよかった。停船しているときに、「KEELUNG」の文字がデッキから見えたのがとても綺麗でテンションが上がった。
11. 基隆では小籠包を味わった後、SNS で見かけるようなかわいらしい服や雑貨を扱う店舗を巡った。街全体が親しみやすい雰囲気であり、観光客でも気軽に散策できる環境であると感じた。また、日本にも展開しているブランドや店舗が多く、極端な異国感は少ないため、緊張せずに楽しめた点が印象的である。初めての海外寄港地として非常に過ごしやすい場所であった。
12. 基隆のターミナルは清潔感があり、表示内容も分かりやすく初めてでも安心して行動できた。台北まではバスで 50 分ほどかかったが、短い時間でもしっかり観光できた。また、海沿いの景色と台湾らしい雰囲気を同時に楽しめて、異文化を身近に感じられる魅力があると感じた。
13. 基隆港に到着後、すぐにバスで台北市内へ移動したため、基隆自体の観光地としての魅力については十分に把握できていない。しかし、バスの切符購入場所では、スタッフが丁寧に説明してくださり、初めての土地でも安心して行動することができた。台北市内から港へ戻る際にはタクシーを利用したが、降車場所を正確に伝えられなかったにもかかわらず、運転手が翻訳アプリを用いて「クルーズ利用か」を確認し、基隆港まで送り届けてくれた点が印象に残っている。港のターミナル内では換金や土産物の購入が可能で利便性は高いと感じたが、換金の最低金額が設定されている点についてはやや不便に感じた。(3000 円からの換金であったがそこまで現金を使わないため。)基隆港は台北市内や九份など主要観光地へのアクセスが良く、台湾観光の拠点として非常に適した寄港地であると感じている。
14. 基隆の滞在では、自分自身、初海外だったこともあり右を見ても左を見ても日本と違う景色が広がっていることに終始驚いていた。台北の方まで行って、食べ歩きをしたり小籠包を食べたり、お茶屋さんに行ったりと台湾を満喫出来たと思う。

15. 基隆は港からすぐに街に行くことができ、すごく魅力的だった。初日に空港で換金することを忘れていたが、換金所があって安心した。初めての海外でわからないことだらけだったが、食事をメインに楽しんだため、観光地としても魅力的だった。お土産も数が豊富で、選ぶことも楽しかった。
16. 下船後、日本語の案内が極端に少なく、周囲の雰囲気や人の流れを頼りに進むしかなかった。周りに日本人が見当たらなかったため、正しいルートか不安を感じたが、入国手続き自体はスムーズであった。多言語表記の拡充や、動線上の誘導スタッフの配置があれば、個人客でもより安心して上陸できると感じた。台北までバスで移動した。鼎泰豊を食べて、マッサージを受けた。台北までバスが出ているので移動がスムーズにできた。
17. 港の受け入れ態勢については、他の港よりも比較的ゆったりしていた。基隆では、着いて台北に向かった。中華料理屋さんへ行き、小籠包や炒飯などを食べた。とてもおいしかった。その後、マッサージへ行き、足のマッサージをしてもらった。基隆に戻ると、屋台で食べ歩きをして、スーパーで買い物をした。

寄港地（宮古島）での感想

（港・ターミナルの施設評価、観光地としての魅力など）

1. 宮古島ではまず地元の沖縄そばを味わい、その後はパイナガマビーチに立ち寄り、海を眺望しながらゆったりとした時間を過ごした。透明度の高い海と落ち着いた雰囲気が印象的であり、短時間の滞在でも宮古島の魅力を十分に感じられた。台湾からの入港であったが、入港時の対応も比較的にスムーズであったが、待機列や導線の作り方はもう少し工夫の余地があると感じた。
2. 宮古島は突き出た防波堤のようなところが整備されおり、シャトルバスでターミナルまで運行している。石垣島のように街から近い分、楽だった。宮古島で見た海がとても綺麗だった。私の出身地も港町ではあるが、太平洋なので綺麗というより壮大なイメージがある。同じ海でもここまで美しいと思えると思わなかった。天気も良かったし、バカンス気分が味わえた。
3. 宮古島ではビーチをメインに観光をした。海を見ながらオリオンビールを飲んで話したりして、宮古島でしか見れない風景を目に焼き付けながら楽しむことができた。ターミナルでの入国審査に少し時間がかかり、目的地までは徒歩移動だったが、景色が新鮮だったので苦ではなかった。

4. 宮古島を訪れてまず感じたのは、クルーズターミナルからのアクセスの良さである。ターミナルから徒歩圏内に美しいビーチが広がっており、下船後すぐに宮古島ならではの自然を体感できる点は、石垣島と比較しても大きな魅力であると感じた。石垣島では中心市街地までの移動に不便さを感じたのに対し、宮古島では移動そのものが観光体験の一部となっており、寄港地として非常に優れた動線が整っていると感じた。滞在中はレンタルサイクルを利用し、伊良部大橋を渡ったほか、島内に点在する複数のビーチを巡った。伊良部大橋は海の上を一直線に伸びる壮大な景観が印象的で、橋の上から眺める宮古ブルーの海は息をのむほど美しく、移動時間さえも特別な体験として楽しむことができた。自転車での移動であったため、風や海の匂いを肌で感じながら島を巡ることができ、宮古島の自然の魅力をより身近に感じることができた。一方で、この体験を通じて感じたのは、宮古島の観光資源が天候に大きく左右されるという点である。今回のように晴天であれば、海やビーチ、橋の景観など、自然の魅力を最大限に楽しむことができるが、もし雨天や悪天候であった場合、これらの観光資源の多くは十分に楽しめなくなってしまう可能性が高いと感じた。その意味で宮古島は、人工的な施設よりも自然の力を存分に生かした寄港地であり、天候条件が観光満足度に大きく影響する特徴を持っていると考えられる。
5. ここはおそらく私が最も感銘を受けた場所の一つです。ビーチはとてもきれいで、水は透き通っていて、素晴らしいので、いつか家族を連れて戻ってきたいと思っています。さらに、海に架かる長い橋は、この地域の注目すべき見どころです。小さいながらも有名な店で蕎麦も食べました。石垣島と比べると、設備が充実していると感じました。
6. 宮古島での滞在は全体的に快適で、観光地としての魅力を感じます。港やターミナルの施設も整っており、島の雰囲気を楽しめます。一方で、外国人にとっては、ターミナルからクルーズ船へ戻るシャトルバスの場所がやや分かりにくく感じたため、案内表示がもう少し分かりやすいとより安心できると思います。
7. 宮古島では与那覇前浜ビーチや3つの橋、また宮古冷麺、スムージーなどをツーリングをして満喫できた。特に印象に残っているのは与那覇前浜ビーチの海の綺麗さである。宮古ブルーとは聞いていたものの想像の遥か上をいく綺麗さで人生で見た中で一番綺麗な海だった。一日では回り切れないほどの魅力が宮古島にはあると感じた。
8. 寄港地である宮古島では、港・ターミナルが整備されており、下船後の動線

も分かりやすく、短時間の滞在でも安心して行動することができた。観光地として最も印象に残ったのは海の美しさであり、これまで見た中で最もきれいな海であると感じ、強い感動を覚えた。透明度が高く、色のグラデーションも美しく、ただ眺めているだけでも非日常を味わえる景観であった。宮古島は自然の魅力が非常に高く、寄港地としての満足度が特に高い場所であると感じた。

9. 海やグルメなど、すべてにおいて完璧だった。寄港地からも近く、便利だった。

10. 港からシャトルバスですぐ行ったところにレンタカーや観光バスの案内が多くあったのがすごく驚いた。日本人だけでなく、海外の方のことまでよく考えられていて、英語表記の看板や英語を話せる人が多くいたように感じた。レンタカーの人も優しいと感じたが、半日過ごして、島全員の人柄がすごく良いと実感した。海が圧倒的に綺麗で、ずっと見ていられる景色だと感じた。

11. 宮古島では、海の美しさに強い感動を覚えた。これまで見たことのないほど鮮やかな青色の海が広がっており、自然そのものが大きな観光資源であると実感した。港周辺にはスパムおにぎりやガーリックシュリンプ、スムージー、サーターアングギーなど多様な飲食店が並び、食べ歩きも楽しむことができた。店舗はいずれも新しく清潔感があり、若年層にとって魅力的な観光地であると強く感じた。

12. 宮古島では、ターミナルまでの無料バス送迎があったので移動に便利だった。

下船

後の案内も分かりやすく、観光地への移動がスムーズで時間を有効に使えた。

宮古島は海の透明度

が高く、ご飯もおいしく、のんびり過ごすのにぴったりな魅力的な島だと感じた。

13. 宮古島では、港のターミナルまでシャトルバスによる送迎があり、台数も十分に用意されているため、到着後の移動は非常にスムーズであった。レンタカーについても、港まで迎えに来てくれる店舗が多く、事前に調べておくことで円滑に利用できる環境が整っていると感じた。徒歩圏内でも一定程度楽しむことはできるが、島内の魅力を十分に味わうためにはレンタカーを利用の方が満足度は高いと考える。複数の浜辺を訪れたが、いずれも「宮古ブルー」と称される青く透き通った海が広がっており、自然景観の美しさが強く印象に残っている。また、サーターアングギーはコンビニエンスストアを含め各所で購入でき、店舗ごとに味の違いを楽しめる点も魅力であった。

その他にも多様な飲食店があり、食の面でも満足度が高い滞在であった。宮古島は竹富島とは異なり、どこかアメリカ的な雰囲気を感じさせる沖縄の一面を体験できる観光地である。

14. 宮古島の滞在では、海を観に行ったりした。宮古島の海は綺麗と聞いたことがあったが、海の底が透けて見えるくらい透き通っていて、感動した。人生で1回は見るべき海だと思った。宮古島には、日本の観光客だけでなく、海外の観光客の方が多くいて、観光地としての魅力が既に浸透していると思った。
15. タクシー会社が多く、下船後すぐにタクシーに乗る人が多かった。タクシー乗り場も広かったため、すごく便利だった。レンタカーのお店まで無料で送迎していただき、温かい町だと感じた。レンタカーだけで宮古島を堪能でき、隅から隅まで移動できたことが魅力の1つだと感じた。
16. 現地ではレンタカーがないと移動が非常に困難であると痛感した。今回は自転車を利用して移動したが、若いうちは良くとも、シニア層には体力的に厳しい環境であると感じる。ツアーで、バスを利用するのも一つの手段だと思う。ビーチに行けたり、ハンバーガーを食べれたり、充実していたと思う。
17. 宮古島については、こちらも船を降りるのは、スムーズでレンタサイクルで宮古島を探検した。A&Wに行き、ハンバーガーを食べ、スーパーで少し買い物をした。その後、ビーチへ行き、海を眺めていた。ブルーシールのアイスのお店に行き、アイスを食べることができた。

学生プレゼンへの感想

1. 学生プレゼンでは、東京港と八代港の発表が特に印象に残っている。東京港は水上バスを活用したクルーズ振興策を提示しており、港と都市観光を一体的に盛り上げる発想が魅力的である。自分自身も幼少期に水上バスへ乗船した経験があるため、親近感を覚えつつ、港湾の持つ多面的な可能性を再認識した。一方、八代港は地元名産である晩白柚を前面に出した施策を展開しており、地域資源を活かした独自性のある施策に共感した。港湾が地域文化と結びつくことで、クルーズの魅力がさらに高まると感じた。
2. 神戸港と広島港のプレゼンが良かった。神戸港は使えるものは使えるという消費者心理を掴んだ内容だと思ったが、真珠の生産ではなく、加工・選別なんだったと思ってしまった。どうしても昨今のふるさと納税みを感じてしまい、新しく良かったはずなのに腑におちない感じがあった。広島港は単純に

知らないことだらけで、未知数だからこそ楽しみがあったと感じた。

3. 印象に残ったチームは神戸港と東京港で、神戸港は今まで目を付けていなかった真珠に注目して、真珠の活用方法などを提案していて新しい発想だと思った。東京港は、今あるものを活用して活性化させようという提案が、お金をできるだけかけずに観光客を増やすかが大事だと思ったので印象に残った。
4. 私が特に印象に残ったチームの一つ目は、東京の港湾をテーマにまとめたチームである。このチームの発表が印象的であった理由は、他の多くのチームがSNSなどを利用したPRなど「ソフト面」に重点を置いた提案をしていたのに対し、水上バスの活用といった「ハード面」から港湾の価値向上を図ろうとしていた点である。港と都市を結ぶ交通インフラそのものに着目し、移動手段を観光資源として活用するという視点は、隅田川を有する東京の特性を的確に捉えた提案であり、非常に新鮮に感じた。特に、水上バスを単なる移動手段としてではなく、観光体験の一部として位置づけていた点が印象的であった。陸上交通が発達している東京において、あえて水上交通を活用することで、混雑の緩和や景観価値の向上といった効果も期待できると感じた。他のチームとは異なる切り口で港湾の可能性を示していたため、発表全体に独自性があり、聞いていて非常に興味深い内容であった。二つ目に印象に残ったのは、大阪の港湾をテーマにまとめたチームである。このチームの発表では、VR 技術を活用した歴史体験の提案が紹介されており、「体験する場所」へと進化させようとする発想に強い印象を受けた。港湾の歴史や発展の過程を、VR を通じて臨場感をもって体験できるというアイデアは、自分自身では思いつかなかった視点であり、驚きと同時に大きな感心を覚えた。この二つのチームの発表を通して、港湾の活性化には多様なアプローチが存在することを改めて実感した。新しい事を考える際には一つの視点にとらわれず、多角的な発想を持つことの重要性を学ぶことができた。
5. データ収集、スライド作成、プレゼンテーションなど、どのグループも非常に綿密な準備をしていたと思います。優勝した 2 つのグループも、プレゼンテーションが明確で、必要な情報をすべて伝え、非常に一貫性のあるプレゼンテーションだったため、受賞にふさわしいものでした。しかし、時間が短かったため、全員が慌ただしく動いていたように感じられ、プレゼンテーションの自然さや分かりやすさがやや損なわれていたように感じました。
6. 学生プレゼン全体を通して、どのチームもよく準備されており、内容も分か

りやすく、非常に興味深く感じます。特に東京港のプレゼンは、構成が明確で説得力があり、同じルームメイトとしてもとても印象に残ります。また、境港のプレゼンも視点がユニークで内容が興味深く、聞いていて楽しめる発表でした。

7. 自治体の皆様の前でプレゼンをするという機会はめったにないことなので貴重な経験となった。印象に残ったのは、神戸港と境港の2チームである。神戸港に関しては、現状・課題から施策までの論理性がありわかりやすいプレゼンであった。実際に聞いてラグジュアリーさの欠陥を綺麗に埋めていたので良かった。境港に関しては、資料を読み込み、インバウンド観光客が多いのに日本語対応のみという明確な課題を見つけていたので良かった。
8. 学生プレゼン全体として、港湾の役割や特徴を限られた時間の中で分かりやすく伝えようとする工夫が見られた。神戸港チームは歴史的背景に触れながら港の意義を整理しており、理解しやすい構成であった。北九州港チームは立地や機能の強みに焦点を当て、要点が明確で印象に残る発表であった。
9. どのチームも多様な視点から、担当する港湾の事を調べていて素晴らしいと思った。中でも印象に残ったチームは、東京港湾と下関港湾であった。多角的な視点に加え、プレゼンの仕方、伝え方がよかった。
10. 出身の港ではないのにも関わらず、全員が港について調べ上げその中で問題点や改善点を挙げたことがすごいと感じた。プレゼンもわかりやすく全チームクオリティーが高いと感じた。①チーム1 東京港 まず、たった一人で調べ上げパワポを創り上げたことがすごいと感じた。また、水上バスという現実性があり、魅力が分散している東京だからこそ活用することができる案だと感じた。②チーム6 境港 視覚的に見やすい、実体験を踏まえながら説明していたのが印象的で、わかりやすいと感じた。
11. 学生プレゼン全体を通して、普段あまり意識することのない港湾について主体的に調べ、理解を深める貴重な機会となった。自分自身が知らなかった港の役割や歴史、地域との関わりを学ぶことができ、港が単なる物流拠点ではなく、地域づくりに深く関わる存在であることを実感した。印象に残ったプレゼンの1つ目は広島港である。広島港の歴史を時代ごとに整理し、物流拠点としての役割から、戦後復興や平和都市を支える港へと機能が変化してきた過程が分かりやすく説明されていた。特に、戦後復興との結びつきに着目した視点は説得力があり、広島港が持つ社会的意義や地域的価値を再認識できる内容であった。2つ目は神戸港である。「通過点から目

的地へ」という明確なテーマ設定のもと、現状の課題と解決策が論理的に整理されており、非常に理解しやすいプレゼンであった。世界シェア 70% を誇る真珠産業に着目した点は独自性が高く、神戸港ならではの強みを活かした提案であると感じた。

12. 広島港と神戸湾。 広島港は概要と寄港状況、歴史、取り組みの要点のまとめかたが分かりやすく、理解しやすかった。また、プレゼンテーションも問いかけが多く、聞いていて楽しかった。 神戸港はタイトルからプレゼンテーション内容を上手く掴んでいた。 要点のまとめかたが素晴らしく、重要なポイントをうまく発表していた。

13. 学生プレゼン全体を通して、各チームがそれぞれの港の特性や地域性を丁寧に捉え、クルーズとの結び付け方を工夫している点が印象的であった。単なる観光紹介にとどまらず、既存の取り組みや地域資源をどのように活用するかという視点が多く見られ、発想力や企画力の高さを感じた。また、パワーポイントの構成や視覚的な工夫にも差が見られ、内容を分かりやすく伝える重要性を改めて実感した。特に印象に残ったのは東京港チームである。自治体が既に実施している取り組みを基盤とし、それをクルーズと結び付ける発想に新鮮さと現実性を感じた。パワーポイントも全体に統一感があり、情報が整理されていて理解しやすいプレゼンテーションであった。もう一つ印象に残ったのは広島港チームである。広島の歴史におけるネガティブな側面ではなく、ポジティブな側面に焦点を当て、それを港の活性化へとつなげていく視点が非常に興味深かった。年表の配置方法など視覚的な工夫も効果的で、全体像を一目で把握できる分かりやすいプレゼンテーションであった。

14. 同じ学生が港に対して、現状に対する改善案をプレゼンするという点で似通った内容になるかなと思っていたが、それぞれ中身の違うプレゼンに仕上がっていて聞いていて面白かった。印象に残ったのは、東京港と北九州港である。東京港に関しては、自分の実体験をもとに話していたことが説得力が強く良かった。北九州港に関しては、港の歴史を作り上げたのは関わってきた人だから、そこをもっとアピールしていくべきという話に深く納得した。

15. 短い時間ではあったが、それぞれの港について知れた良い機会だったと思う。大阪港の方のタイムトラベル AR が 1 番印象に残っている。スマホですぐに体験でき、歴史も感じる点がある点が魅力的であった。また、神戸港も真珠に注目している点と、通過点から目的地へという視点が自分に

はなかったので、すごく良かった。

16. 印象に残った一つ目のチームは、東京港の発表である。特に、移動時間を活用し、車内で観光地の説明を行うという提案が印象的であった。実際に現地に到着してから説明を受けるよりも、事前に背景や見どころを知っておくことで、観光地の見え方が変わるのではないかと思った。限られた時間を有効に使うという視点があり、実現性の高い提案であると感じた。もう一つ印象に残ったのは、清水港をテーマにしたチームの発表である。富士山という外国人にとって分かりやすく、日本らしさを強く感じられる要素に着目していた点が良いと感じた。写真スポットや撮影の工夫など、実際に観光客がどう行動するかを想像しながら聞くことができ、具体性のある提案だと思った。

17. 学生プレゼンについては、それぞれの港の課題から、港やその周りの発展に焦点を当てた解決策がよく示されており、興味深かった。広島港は、その歴史から詳しく説明されていて、どのような港であるのかが分かりやすかった。東京港は、水上バイクという新しい切り口から、改善案が提案されていたのが新鮮であった。

各港湾（自治体）プレゼンへの感想

1. 自治体プレゼンでは、東京港と広島港の発表が特に印象に残っている。東京港はレインボーブリッジの通過可否によってターミナルを使い分ける運用を行っており、船舶のサイズに応じた柔軟なオペレーションが明確で、港湾管理の観点から非常にわかりやすいと感じた。一方、広島港は写真やグラフを効果的に用いた資料構成が優れており、情報が頭にすっと入ってくる聞きやすいプレゼンであった。視覚的な工夫と論理的な説明が両立しており、港湾の特徴や課題が理解しやすい発表であった。
2. 境港と八代。境港の特性は、港湾関係者と何度か一緒になったことがあるのにも関わらずよく知らなかったもので、初めて概要を知ることができた。八代は普通に熊本出身者から話を聞くぐらい話題性に富んでいたのが良かった。神戸と少し迷ったが、どちらも資金的に少し裕福な部類だし、環境を整備することができているのは恵まれていることだと思う。
3. 八代港と清水港が印象に残った。八代港はくまモンポート八代という名前の通り、くまモンを最大限に活用し港の特色を出していてキャラクターでどんな港だったか思い出せるような工夫がすごいなと思った。清水港は課題

として、あまりお土産を買ってもらえず、体験を求めている観光客が多いということを聞き、体験型観光の需要が高いことがわかった。

4. 私が特に印象に残っている自治体プレゼンの一つ目は、八代港のプレゼンテーションである。中でも強く記憶に残っているのは、プレゼン資料に使用されていた写真に写る、非常に多くのくまモンの像である。その圧倒的な数とインパクトに、思わず目を奪われたことを今でも鮮明に覚えている。八代港周辺は、全国的に知名度の高い観光地が多いとはいえないが、熊本県の人気キャラクターであるくまモンを前面に押し出すことで、港そのものに強い印象と話題性を持たせる工夫がなされていた。このプレゼンを通じて、必ずしも歴史的建造物や有名観光地といった既存の観光資源が豊富でなくとも、何か一つでも飛び抜けた特徴や記憶に残る仕掛けを作ることができれば、それ自体が新たな観光資源になり得るのではないかと感じた。自治体の創意工夫次第で港の価値を高められるという点に、非常に可能性を感じさせられたプレゼンであった。私が印象に残っている自治体プレゼンの二つ目は、東京港のプレゼンテーションである。東京港はクルーズターミナルを二つ有しており、それぞれのターミナルに明確な役割分担がなされている点が特に印象的であった。一方は大型客船の受け入れを想定した本格的な施設であり、もう一方は立地や機能面で異なる役割を担うなど、首都東京ならではの計画性と戦略性を感じた。また、他の港と比較しても圧倒的な受け入れ客数を誇る東京港では、船舶の受け入れ体制だけでなく、動線設計や安全対策、周辺交通との連携など、あらゆる面で高度な整備が求められることを実感した。多くの人を受け入れるからこそ、快適性と効率性の両立が重要であり、そのためのインフラ整備が不可欠であるということ、このプレゼンを通じて強く理解することができた。これら二つの自治体プレゼンを比較することで、港ごとに置かれた立場や規模、目指す方向性は大きく異なるものの、それぞれが自らの強みを最大限に活かそうとしている点が共通していると感じた。港湾振興においては、規模の大小に関わらず、明確な戦略と独自性を持つことが重要であると学ぶことができた。

5. 1. 東京港のこのプレゼンテーションは非常にプロフェッショナルだと感じました。全体の構成が明確で、2つのクルーズターミナルの開設に関する最新情報が数多く提供され、港の収容能力と都市立地の利点が強調されていました。データ、図表、画像も豊富で、理解しやすかったです。2. 下関港のプレゼンテーションは、明瞭さ、分かりやすい構成、そして多様な図解という基準を満たしていました。さらに、問題提起と具体的な解決策の提案は、

私にとって非常に説得力がありました。

6. 自治体プレゼンの中では、大阪港と境港が特に印象に残ります。どちらの港も、現状の課題や港湾を取り巻く条件が整理されており、分かりやすく説明されていました。具体的なデータや事例を用いた説明により、港の特徴や今後の方向性が明確に伝わってきた点が良かったと感じます。
7. 1つ目は担当した広島港のプレゼンである。実際に私たちが調べた内容以外の広島港周辺の課題を紹介しており、他にもこんな課題があったのかと感じることが出来た。なので広島港の自治体の方のプレゼンを聞いてリサーチ力を高めたいと感じた。2つめは、八代港である。プレゼンに書かれていること以外に、緊急時の受入をたまにする時があるという現場でしかわからない情報を聞けて、各港湾の受入拡大という課題があることを感じた。
8. 自治体プレゼンの中では、東京港と清水港が特に印象に残った。いずれの港湾も、自治体としての姿勢や取り組みへの熱意が伝わる落ち着いた発表であり、全体の雰囲気が分かりやすくまとめられていた点が印象的であった。聞き手に配慮した構成で、安心感のあるプレゼンであったと感じた。
9. 神戸港湾と下関港湾、それぞれの港湾に歴史があり、とても話を聞いていて興味深かった。
10. ①八代港 くまモンという有名ゆるキャラをうまく活用して港を盛り上げようとしていることが印象的だった。くまモンが何十体もいる場所があり、単純に行ってみたいと感じた。②清水港 ランキングやグラフを使って、うまく他港との差を表しているなど感じた。現状分析がしっかりしており、何が足りないのかを把握している感じがした。最後の「今後の課題と質問」が足りないところを直そうとしている感じが伝わってとてもよかった。
11. 1つ目は八代港である。写真資料が多く用いられており、港の雰囲気や周辺環境を具体的にイメージしやすい構成であった。現状や課題の説明にとどまらず、「実際に訪れてみたい」と思わせる魅力的な発信がなされていた点が印象的である。特に、くまモン像が設置された広場の紹介は地域性が感じられ、観光的な魅力を効果的に伝えていた。2つ目は清水港である。清水港の地理的特性や富士山を望む景観の魅力が丁寧に説明されており、港湾の強みが明確に伝わるプレゼンであった。加えて、グラフを用いたデータ提示によって寄港状況や現状を客観的に理解できる点が高く評価できる。寄港地ツアーの具体例からは実務的な視点も感じられ、課題意識が明確である点も印象的であった。
12. 八 代 港 と 清 水 港 。

八代港は熊本のご当地キャラクターのくまモンの説明とともにクルーズ船専用の施設について説明していたので、聞いていて楽しかった。また、PowerPointが見やすく理解しやすかった。清水港は、表であったりグラフが多く使われていたので、内容が入ってきやすかった。

13.自治体プレゼンの中で特に印象に残った港湾は、八代港と境港である。八代港のプレゼンでは、「くまモンポート」として整備された港の特徴が視覚的に強く伝わってきた。くまモンのオブジェや装飾が数多く配置されている様子を写真で示しており、一目で記憶に残る工夫がなされていると感じた。観光客に対して分かりやすく、親しみやすい港づくりが意識されている点が印象的であった。境港のプレゼンでは、地図を用いて港から最寄り駅までの距離や、周辺の観光名所との位置関係が整理されており、土地勘のない人にとっても理解しやすい内容であった。港が抱える課題や強みが視覚的に把握しやすく、現状分析が丁寧に行われている点に好感を持った。観光動線を意識した説明がなされており、実際の活用イメージが湧きやすいプレゼンテーションであった。

14.印象に残ったのは、下関港と八代港である。下関港に関しては、課題の部分でただ単に課題として列挙するのではなく、ハード面とソフト面として分けて列挙していたのが良かったと思う。八代港に関しては、まずスライドが見やすかった。写真と文章、数値を多く用いているのに、必要な情報がきちんと目でも読み取りやすく良かったと思う。

15.八代港は、他の港と比べてやはりくまモンが何十体もいることが強みであることを再認識した。タクシーやシャトルバス等の課題解決や緊急寄港の際の対策を思考されていてもっと八代港を知ってほしいと感じた。また、大阪港に寄港した際に京都方面へ行くバスの方が多く驚いた。

16.清水港のプレゼンでは、寄港地ツアーの行き先が具体的に示されていた点が印象的であった。富士山や市内観光、周辺地域へのツアーなど、乗客が「どこへ行き、何を体験しているのか」が明確で、イメージしやすい内容であると感じた。クルーズ客にとって、寄港地での過ごし方は満足度に直結するため、観光消費額の向上という課題に対して、実務的な視点から取り組んでいる点に現実性を感じた。広島港のプレゼンでは、クルーズ客だけでなく、地域住民にも港を楽しんでもらおうとする姿勢が強く印象に残っている。出港時の見送りや一般県民向けのクルーズセミナーなど、港を「特別な人の場所」にせず、日常とつなげようとしている点が魅力的であると感じた。港

周辺が盛り上がり欠けているという課題を正面から捉え、住民との関わりを通じて解決しようとする姿勢に、新しい視点だなと感じた。

17. 自治体プレゼンについて、神戸港は、課題として大阪や京都に観光客が流れてしまうという課題から、神戸で楽しんでもらうための策が非常に分かりやすく示されていた。境港については、県境にあるという特殊な港で、水木しげるロードなど賑わっているようにみえるが、やはり公共交通機関や島根側にツアーが偏っているといった課題が残っていると知ることができた。

スマート・クルーズ・アカデミー企画全般についての感想と今後の要望

【スポーツ交流会（増え鬼）、プレゼン大会、フォーマルナイトなど】

1. スポーツ交流会やプレゼン大会、フォーマルナイトなど、多様な企画が用意されており、参加者同士の交流が深まる良い機会となった。特にプレゼン大会は学びが多く、異なる立場の視点を知ることができた点が有意義であった。限られた時間の中ではあるが、今後はさらに交流の機会が増える企画があるとより良いと感じている。
2. プレゼン大会について、フィードバックが欲しい。匿名で良いので頂きたい。何が刺さる提案なのか本当にわからなくて困ることがある。誰が喜ぶものなのか、その理由はなんなのか、普段のプレゼンなどを含めても改善していきたいと思うので、ぜひフィードバックが欲しい。学生からどうでしたかと聞きに行くのも少し躊躇ってしまうので、是非公式に頂きたい。
3. スポーツ交流会・プレゼン大会・フォーマルナイトすべての企画がすごく印象に残っていて、これらの企画をやることで、自治体さんや他大学の学生さんとも交流する機会が得られるので、たくさんの人と話したり、寄港地で一緒に観光したりすることもできたので、これからも続けるべきだと思う。
4. スポーツ交流会を通して、参加者同士が自然に会話を始めるきっかけが生まれたことは、非常にありがたかった。初対面同士であっても、活動を共有することで距離が一気に縮まり、年齢や立場を超えて交流できた点が印象的である。こうした交流を通じて、他大学の学生や社会人参加者の考え方や価値観に触れることができ、自身の視野を広げる良い機会となった。また、プレゼン大会は、スマートクルーズアカデミーならではの特色が強く表れたプログラムであり、単なる発表の場にとどまらず、実践的な学びを得られる非常に充実した時間であった。各グループが港湾やクルーズに関する課題を考え、それぞれ異なる視点から提案を行っていたため、多様な発想やア

プローチに触れることができた点が特に印象に残っている。自分自身も、人に伝えることの難しさや、限られた時間の中で要点を整理する重要性を改めて実感した。さらに、フォーマルナイトをはじめとするクルーズ船内でのさまざまな企画は、日常生活ではなかなか体験できない、クルーズならではの時間の過ごし方や非日常的な雰囲気味わうことができる貴重な機会であった。特別な空間の中で参加者同士が交流することで、学びだけでなく思い出としても強く心に残る経験になったと感じている。これら一連のプログラムを通して、クルーズそのものへの関心がさらに高まり、他のクルーズ船や異なる寄港地にも実際に足を運んでみたいという思いが強くなった。また、今回得られた知識や経験を一過性のものにではなく、より深い学びにつなげていきたいという意欲も生まれた。そのため、スマートクルーズアカデミーには、今後もぜひ再び参加したいと感じるほど、非常に有意義で満足度の高い時間であった。

5. グループ活動中のメンバー同士の交流に大変感謝しています。しかし、活動以外では、メンバー数名と偶然外出する機会があった以外は、グループメンバーとの交流はほとんどありませんでした。驚いたことに、その外出では、彼らの助けに心から感銘を受け、感動しました。おそらく、この旅行全体で最も素晴らしい思い出の一つです。可能であれば、主催者の方々には、グループメンバー同士がもっと交流できる機会をもっと設けていただければと思います。
6. スマートクルーズアカデミーの企画全体を通して、スポーツ交流会やプレゼン大会、フォーマルナイトなど、どのプログラムも楽しく参加できます。学生同士だけでなく、スタッフや先生方とも交流できる機会が多く、充実した時間を過ごせます。今後は、船内や寄港地で、学生・スタッフ・教員がさらに交流できるプログラムが増えることを期待します。
7. スポーツ交流会では他大学の学生や自治体の皆さんと交流でき少しは仲が深まったと感じているので良かったと感じている。プレゼン大会では広島港を担当させてもらい 2 位を取ることが出来た。広島港を調べるにあたり知らないことや広島の歴史を再認識でき良い機会となった。フォーマルナイトも楽しみの1つでスーツやドレスを着てみんなで写真を撮ったことが印象に残っている。
8. スマートクルーズアカデミー企画全般については、学びと交流の両面がバランスよく組み込まれており、充実した内容であったと感じた。スポーツ交流会の増え鬼では、参加者同士が自然に打ち解けるきっかけとなり、良い

雰囲気づくりに寄与していた。プレゼン大会は適度な緊張感があり、参加者の主体性を高める機会となっていた。フォーマルナイトも非日常感を味わえる印象的な企画であった。今後は、交流の時間をさらに増やす企画や、自由参加型のイベントがあるとより満足度が高まると考える。

9. 他大学の学生さんと交流できたのがすごくよかった。なぜクルーズに乗船しようと思ったのか、クルーズに対するイメージなど同世代の型からたくさんお話を聞けて良い機会となった。
10. スポーツ交流会については、身体を動かしながらチーム内で交流できたことがよかった。だが、話す機会があまりなく各々で集まってしまう印象だった。思っていたよりも小さい範囲だったため怪我しないか不安になった。プレゼン大会については、各自治体の方と協力して意見を出し合えたことがよかったと感じた。学生、自治体各々でプレゼン内容の解釈が異なっていたのが、進行するうえで少し大変だったと感じた。貴重な経験ができた。
11. スマートクルーズアカデミーの企画を通じて、学生同士だけでなく自治体の方々との距離が縮まり、気軽に会話ができる雰囲気が生まれた点が非常に良かったと感じている。特にスポーツ交流会では自然な形で交流が進み、場の一体感が高まった。今後は増え鬼だけでなく、複数のスポーツや企画を選択できる形式があると、より多様な交流が生まれると考える。
12. 最初に交流会として増え鬼をやったことで、年齢関係なく、スマートクルーズアカデミーに参加している方たちと交流ができたのでよかった。他にも、学生だけではなく、普段交流することができない自治体の方達とも交流できて貴重な体験だった。プレゼンテーション大会では、自分の足りないプレゼン力を学ぶことができた。
13. "スマートクルーズアカデミー企画全般を通して、学びと交流の両面で充実した内容であったと感じている。スポーツ交流会では、普段関わる機会の少ない社会人と一緒に体を動かすことができ、新鮮で有意義な時間であった。年齢や立場を超えた交流が自然に生まれる点に魅力を感じた一方で、初対面の参加者同士が手をつなぐ場面については、やや心理的なハードルを感じる参加者もいるのではないかと思った。プレゼン大会では、学生だけでなく社会人のプレゼンテーションを間近で見ることができ、資料構成や話し方など、今後自分自身が発表を行う際に参考にしたい点が多くあった。実践的な学びの機会として非常に有意義であった。フォーマルナイトについては、普段なかなか着用する機会のないドレスを身に着けることができ、特別

感のある体験であった。一方で、衣装を事前に持っていない参加者にとっては購入の負担が大きい可能性もあったと感じた。"

14. スポーツ交流会に関して、ものすごく楽しかったのが良かったと思うが、あの狭い場所でさらに範囲を狭めて増え鬼をやるのは危険だと思った。種目を変えてもいいのではと思った。プレゼン大会は、事前課題を設けるのであればもう少し早めにアナウンスしていただけると助かりました。フォーマルナイトは、ゼミ生とだけでなく皆さんとも写真を撮ることが出来て良かった。
15. スポーツ大会は、交流できる場としては良かったが、いきなりの運動で自分を始め怪我をした方もいたので準備運動が必須だと思った。また、ボール等があるのであればそれを使った遊びも1つの案だと思った。プレゼン大会は、時間の関係で発表して終わりになったため、時間を測る等した方が時間の有効活用ができるだろうと感じた。
16. クルーズ誘致の第一線で活躍されている方々と意見交換ができたことは、非常に有意義な経験であった。学生の視点では見えていなかった実務的な課題や視点を知ることができた。また、学生である私たちに対しても真摯に向き合い、対等に意見をくださったことが大変嬉しく、励みになった。フォーマルナイトは、普段着ることない正装をしてディナーを食べるという貴重な経験となった。
17. スポーツ交流会については、あまりチームで話す機会がなく、チームで親しくなるということが少し難しいプログラムだった。王様ドッチなどチーム戦でありながら、ゲーム中にもチーム同士で会話ができるような、球技などのスポーツをしたいなと感じた。プレゼン大会については、各港の現状と課題やプレゼンはどのように行うものなのかなど、新たな知見を得ることができ、非常に有意義な時間であった。フォーマルナイトについては、みなで着飾って、楽しむ雰囲気がとても新鮮で、楽しかった。

地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割についての感想

(国・自治体政策のあり方など)

1. 寄港地の様子を踏まえると、クルーズ客船の誘致は地域経済に大きな効果をもたらすと感じている。港湾は単なる交通拠点ではなく、地域の魅力を発信する玄関口として重要な役割を担っている。国や自治体は、港湾整備と観光資源の連携を強化する政策が求められると考える。
2. やはり地理的特性は大きいと思う。クルーズのために整備できる港もあれ

ばそうではない場合もある。港と街の近さもやはり選択肢として挙げられるだろう。MaaS とはいうが、普通にドア to ドアの方が便利なので、ツアーとかよりも気軽に街に出やすいかどうかが選択肢になってくると思う。港で何ができるか創意工夫が求められるが、やはり地域活性化に結びつける何か施策を模索していかなければならない。

3. どこの寄港地も寄港した土地を観光する人が少なく、周辺の有名な観光地に流れてしまうのが課題とした。寄港地の港の整備とともにその自治体は環境客に何を求めている、環境客は何を求めているのか明確にしてプロモーションすべきだと思った。
4. それぞれの港湾の方の説明や寄港地の説明を受けた際、それぞれの自治体によって抱えている問題はそれぞれ異なっており、ターミナルの規模なども違うため一概に言うことは難しいが、ハード面の強化は予算的にも難しくなってくるため、ソフト面の強化が大事になってくるのではと考えた。学生プレゼンでも多くの意見が出ていたように、これからの時代はどういった情報をどういった人に伝えていくかという発信力が大事になってくると思うので、各港湾全体として言えることとして発信に力を入れてもいいのではと考えた。国としてもオーバーツーリズムや一極集中を防ぐために、各地方港湾に投資することで観光客の分散や地方活性化に繋がるのではと考えた。
5. 平良港と石垣港では、下船後に市街地までシャトルバスが出ているので、便利な選択肢と言えるでしょう。あとは、各自治体が観光客を惹きつけるためにどのような施策を講じているかにかかっているでしょう。個人的には、この地域には独特の名産品がたくさんあるように見えますが、港近くのお店のお土産の品揃えや種類はかなり限られていると感じています。
6. 各寄港地を訪れることで、クルーズ客船は地域観光や地域活性化に大きく貢献できると感じます。港から市内へのアクセスや交通案内が分かりやすいことで、短時間でも観光を十分に楽しめます。また、外国人旅行者向けに翻訳された分かりやすいガイドがあると、さらに利便性が高まると思います。港はクルーズと地域をつなぐ重要な玄関口であり、施設整備や観光サービス向上のために国と自治体の連携が重要だと感じます。
7. クルーズ船の誘致を積極的に行うと同時に各港湾はそれに向けた整備をするべきだと感じた。実際に私含め多くの観光客が寄港地を訪れ、そこでの消費額は大きく経済波及効果があると感じた。また、インバウンド拡大も狙えることや、なによりも地域ブランドが確立できることがメリットだと感じた。そのために、寄港地の港湾はインフラの整備や、港湾でのイベント開催をす

る役割があると感じた。

8. 各寄港地の様子を通して、クルーズ客船の誘致は地域活性化において大きな役割を果たし得ると感じた。短時間の滞在であっても、多くの来訪者が地域に立ち寄ることで、観光や消費の機会が生まれ、地域の魅力を広く発信するきっかけとなっていた。こうした効果を最大化するためには、港湾が単なる交通拠点にとどまらず、観光や交流の入口として機能することが重要であると考え。国や自治体には、港湾整備と観光施策を連動させ、地域の特色を生かした受入体制を継続的に整えていく姿勢が求められる。
9. 各寄港地の様子から、クルーズ客船誘致は地域経済や交流人口の拡大に大きく寄与すると感じた。そのためには、港湾が観光の玄関口として地域資源をつなぐ役割を果たすことが重要である。今後は国が港湾整備や人材育成を支援し、地域主導の持続可能な誘致体制を構築していく必要がある。
10. インバウンド客が増加しているなかで、地域と外国の方とを繋ぐ架け橋のようなものだと感じた。地域によってアピールポイントが異なり、「また来たい」「もっとこの地域のことを知りたい」という旅行の”入口”となっていると感じた。自分が思っていたよりも港湾の役割が多く、交易だけではないことを知って驚いた。学生が考えた改善案や問題点に対して、自治体の方が真摯に向き合い考えてくれたことが嬉しく、港湾をより良いものにしようと考えている姿に感銘を受けた。
11. 各寄港地を訪れる中で、クルーズ客船が地域活性化に与える影響の大きさを実感した。クルーズ客は短時間で多くの観光消費を行うため、飲食店や土産物店、交通機関など幅広い産業に経済効果をもたらす存在である。そのため港湾は単なる船の発着拠点ではなく、地域経済と観光を結びつける重要な玄関口としての役割を担っているといえる。今後は国や自治体が港湾整備と観光施策を連動させ、寄港後の導線整備や受入体制の強化を進めることが、持続的な地域活性化につながると考えられる。
12. 各寄港地を回ってみて、クルーズ船の寄港は観光客を一気に呼び込める点で、地域活性化に効果があると感じた。そのため、港やターミナルの整備だけではなく、自治体が交通や観光情報を分かりやすく発信することが大切だと考える。国や自治体が連携して受け入れ体制を整えば、地域の魅力を広く知ってもらうきっかけになると感じた。
13. 各寄港地での体験を通して、クルーズ客船の誘致は観光客の流入を促すだけでなく、地域の魅力を短時間で広く発信できる有効な手段であると感じ

じた。一方で、港湾は単なる発着点ではなく、寄港後の移動手段や観光動線、情報提供の拠点として重要な役割を担っている。国や自治体においては、港湾整備と観光施策を一体的に捉え、地域特性に応じた受け入れ体制を構築することが、持続的な地域活性化につながると考える。

14. 各寄港地ではクルーズ客の来訪により観光施設や商店街の賑わいが見られた。地域活性化には、国や自治体が港湾整備や受入体制を進め、地元事業者と連携した観光政策を継続的に行うことが重要だと感じた。また、地域の魅力を分かりやすく発信する取り組みも必要だと思った。
15. 各寄港地の様子を見ると、クルーズ客船誘致は地域活性化に有効である一方、タクシーやバスなど二次交通の整備不足が課題として感じられる。また、緊急時の対応体制についても十分とはいえず、港湾は観光拠点であると同時に危機対応の要として機能する必要がある。自治体や各国は、受入環境全体を見据えた政策を進めるべきである。
16. 実際に寄港地に降りてみて、港はその街の玄関だと感じた。国や自治体に期待したいのは、大きな施設を作るハード面だけでなく、降りた人が迷わず快適に街へ出られるようなソフト面の気遣いだ。ただ船を呼ぶだけでなく、観光客がストレスなく街を楽しめる環境を整えて初めて、本地域活性化に繋がるのではないかと考えさせられた。
17. 各寄港地の様子を見て、地域活性化においては港と市街地を結ぶ公共交通機関の充実が非常に重要であると感じた。港周辺の交通手段や案内が不十分な場合、乗客の行動範囲が限定され、地域内での消費が広がりにくい。港湾は単なる船の受け入れ施設ではなく、地域の玄関口として観光導線や情報発信を担う役割があり、国や自治体はハード整備だけでなく、地域と連携した受け入れ体制の構築を進める必要があると感じた。

寄港地の地域活性化に向けた、クルーズ船社（今回でいえば MSC）の役割、船社が直面する課題、今後船社に期待すること

1. MSC は寄港地との連携を深め、地域経済への貢献を高める役割を担っていると感じる。一方で、乗客数の増加に伴う混雑対策や環境負荷への対応など、課題も存在すると推測する。今後は地域との協働をさらに強化し、持続可能なクルーズ運営を進めることを期待している。
2. MSC は日本の Jリーグのスポンサーとして出資しているのもあって、知っている人は日本での認知度が高いと思う。そういう地域スポンサーに寄港地

が多いところとかは出資してくれると、認知度や話題性などもあって良いと思う。セレブリティミレニアムとか、プリンセスクルーズとかも様々挙げられるが、そういう日本で目につきやすいアピールが MSC は上手いのだと思った。

3. 港の大きさとクルーズターミナルが整備されているか、その寄港地を選択してお客様に満足いただけるかが船社が直面する課題だと思う。クルーズは少しお値段はかかるけど、乗る側はセレブリティな感じだと期待しているのでその期待に応えるような対応と設備を整えてもらいたいと思った。
4. クルーズ業界全体を通して感じたこととして、ターゲットとなっている客層が圧倒的に高齢層に偏っている点は、大きな課題であると考えた。現状では、時間や経済的余裕のある高年層が主な利用者となっており、若年層にとってクルーズは高価で敷居の高いもの、自分たちにはまだ早いものというイメージが強いように感じられる。このようなイメージが固定化されてしまうと、将来的な利用者層の拡大が難しくなり、業界全体の持続的な成長にも影響を及ぼす可能性がある。また、対中関係の悪化によりクルーズの客層に変化が見られているという話を聞き、クルーズ業界は国際情勢や外交関係の影響を強く受ける産業であることを改めて実感した。特定の国や地域からの観光客に依存している場合、政治的な緊張や関係悪化が起きると、需要が急激に減少するリスクを抱えている。この点から、平和産業であると言える。こうした課題を踏まえると、クルーズ業界が今でも安定して発展していくためには、特定の国や高齢層に依存しすぎない、多様な客層の獲得が不可欠である。その中でも特に、若年層への認知度向上とイメージ刷新は重要な取り組みであると考えます。例えば、短期間・低価格のクルーズプランの充実や、SNS を活用した情報発信、若者向けイベントや体験型プログラムの導入などを通じて、クルーズをより身近で魅力的な存在として発信していく必要がある。
5. MSC は地域観光の発展に大きく貢献しています。日帰り旅行であっても、観光客は地元の特産品を購入するなど、何らかの形で商品を購入し、地域住民の収入増加に貢献しています。さらに、観光客が良好な体験をすれば、将来的には地域観光産業にとって効果的な広告チャネルとなる可能性も秘めています。しかしながら、あらゆる年齢層のニーズを満たす日帰りツアーを企画するのは容易ではありません。地方自治体が観光会社と緊密に協力し、観光客にとってより魅力的なツアーを企画することを期待しています。
6. MSC のようなクルーズ船社は、多くの観光客を寄港地へ運び、地域観光や

地域活性化を支える重要な役割を果たしていると感じます。寄港地観光ツアーの企画や情報提供を通じて、短時間でも地域の文化や魅力を体験できる点は大きな価値があります。一方で、言語の壁や寄港時間の制限、現地交通との連携などの課題もあると思います。今後は、地域との協力をさらに強化し、外国人旅行者向けの多言語案内を充実させることを期待します。

7. 船社の役割としては、寄港地の魅力を船内でどれだけ伝えられるかである。そのために、寄港地の写真や映像を見せることや、誰でもわかるように多言語説明へと変換する必要がある。課題としては、オーバーツーリズムによる地域住民の反対意見などが挙げられる。期待することは、寄港地と船社とが連携した商品開発であったり、オーバーツーリズム緩和対策である。
8. 寄港地の地域活性化において、クルーズ船社は観光客を地域へ継続的に送り出す重要な役割を担っている。今回のように MSC が複数の港に寄港することで、各地域に新たな交流や消費の機会が生まれていた。一方で、限られた滞在時間の中で地域の魅力を十分に伝えることや、寄港地ごとの受入体制の差に対応することは船社にとって課題であると感じた。今後は、自治体や地域事業者と連携し、寄港地ならではの体験を組み込んだ企画を進めることで、地域活性化により深く貢献していくことを期待したい。
9. 寄港地の地域活性化において、クルーズ船社は観光客の地域分散や地元事業者との連携を通じ、経済効果を地域に還元する役割を担う。今後はオーバーツーリズムや環境負荷への対応が課題であり、地域特性を生かした持続可能な寄港地づくりへの貢献が期待される。
10. 寄港地活性化において船社は、寄港地観光の造成や地元事業者との連携を通じ、経済波及効果を高める役割を担う。一方、混雑対策や地域理解の不足が課題である。今後は持続可能性を重視し、地域文化を尊重した寄港地運営が期待される。
11. クルーズ船社は、地域と乗船客をつなぐ重要な存在である。船社が寄港地の魅力を分かりやすく発信することで、乗客の観光行動は大きく左右されると感じた。一方で、言語の違いや滞在時間の制約により、地域の魅力を十分に伝えきれないという課題も存在する。今後は自治体や観光事業者と連携し、地域文化や生活に触れられる体験型プログラムの充実が求められる。船社が単なる輸送手段にとどまらず、地域価値を創出するパートナーとして機能することが期待される。

12. 今回のクルーズを通して、MSC クルーズのような船社は、寄港地に多くの観光客を運び、地域経済に直接貢献できる重要な存在だと感じた。一方で、寄港時間の短さや地域との連携不足など、船社側が調整しなければならぬ課題が多い。今後は、自治体や地元の観光協会と協力し、分散型観光や地域の魅力を知ることができるツアーを増やすことでより持続的な地域活性化に繋がることを期待している。
13. 寄港地の地域活性化において、クルーズ船社は観光客を地域へとつなぐ重要な媒介者であり、寄港地の魅力を船内外で発信する役割を担っていると感じた。今回のクルーズにおいても、寄港地情報の提供や船内プログラムを通じて、各地域への関心を高める工夫が見られた。一方で、限られた寄港時間の中で観光体験を充実させることや、多言語対応、安全対策の徹底といった課題も存在すると考えられる。今後は、自治体や港湾関係者とより連携を深め、地域の特性を活かした寄港地体験の設計や、持続可能な観光への取り組みを推進していくことに繋がると考える。
14. MSC のようなクルーズ船社は、多くの観光客を地域へ運ぶ役割を担っている。一方で寄港地ごとの受入環境や混雑対応などの課題もある。今後は地域の特色を活かした寄港地観光の提案に期待したい。船社と自治体の連携強化が重要だと感じた。
15. 寄港地の地域活性化において、クルーズ船社は観光客を地域へ送り出す重要な役割を担っている。MSC のような大型客船は経済効果が大きい一方、寄港地側の受入体制との連携が課題となる。今後は、船社が自治体や交通機関と協力し、円滑な移動や緊急時対応まで含めた支援を行うことが期待される。
16. 船社は単に乗客を安全に目的地まで運ぶ存在だけではなく、寄港地と乗客をつなぐ紹介者としての役割を担うべきだと感じた。寄港地の魅力は、観光名所だけでなく、街の雰囲気や食文化、人々の暮らしといった点にもある。船社がそうした地域の面白さや背景を積極的に発信し、乗客が、この土地を知りたいと思えるような仕掛けを作ることができれば、寄港地での消費や交流はより活発になるだろう。その結果、地域経済の活性化にもつながると考える。船社と自治体がそれぞれ独立して取り組むのではなく、お互いの強みを活かしながら協力する姿勢が大切だと思う。
17. 寄港地の地域活性化において、クルーズ船社は観光客を運ぶ存在にとどまらず、地域と乗客をつなぐ役割を担っていると感じた。一方で、寄港時間の

短さや船内消費の多さにより、地域に経済効果が十分に及ばないという課題もある。今後は MSC のような船社が自治体や地元事業者と連携し、地域資源を活かした寄港地観光や体験型プログラムを積極的に組み込むことが期待される。

クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点)

1. クルーズは多様な世代が非日常体験を共有できる場と感じた。観光振興や国際交流の促進に大きな意義を持つと、今回のクルージングに参加することで感じられた。乗船客のニーズを掘り起こすためには、情報発信の強化や初心者向けのサポートが重要であると思う。クルーズ文化を広げるための取り組みが今後さらに求められると感じている。
2. クルーズはやっぱり敷居が高いものだと思っている。しかし、よくよく考えると日本の航空会社でフルサービスキャリアの飛行機を乗るとしたら結構高いし、その金額と同様の値段で楽しめることもある。日本は島国であるが船旅という文化が薄いし、バカンスなどで長期で休むのにとまどう文化がある。働き方改革も含め、余暇を楽しめる社会になってほしい。それはまずは公務員から示していけば良いと思う。
3. クルーズは寝てるときに移動して起きたら観光地に着いているので、観光地に少ない荷物で行けて、時間を有効的に使える旅なのでタイムパフォーマンスが良く、他の移動手段にはない特徴を持っている。数力所の国・地域に行きたいとなったらかかるホテル代、移動費、移動時間がすべて短縮できることがクルーズ船の在り方だと思う。
4. クルーズの社会的に意義としては、寄港地での消費行動などを通して地域活性化に繋がったり、各寄港地に職業的な需要を生み出すため地域経済を活性化させるための重要な役割を担っていると考える。また、クルーズ振興のあり方として現在の日本の人口減少傾向を考えるとターゲット層を高齢の方に絞らず若い人に向けたパッケージの販売などにも着手するべきではないかと感じた。若い人たちはそもそもクルーズに対しての認知が低く、魅力に気づけていないと考える。そのため若い人たちにクルーズの魅力が伝わることで若い世代が持つ発信力などを経て更なるクルーズの更なる人気向上に繋がっていくのではと考えた。

5. "社会的意義：異なる文化を持つ人々が出会い、語り合い、交流する、興味深い文化の融合点になると思います。プロモーション方法：通常のツアーと同様のプロモーションに加え、ソーシャルメディアを活用し、このツアーを体験した人々に個人ページで宣伝を依頼し、情報を拡散してもらうのも良いでしょう。さらに、価格をもう少し下げることができれば、中流家庭にもより利用しやすくなるでしょう。"
6. クルーズは観光振興や文化交流を促進し、地域や国同士のつながりを深めるという点で、高い社会的意義があると感じます。年齢や背景の異なる人々が、快適な環境の中で新しい文化を体験できることもクルーズの大きな魅力です。今後のクルーズ振興においては、分かりやすいスケジュールや多言語対応、幅広いアクティビティなど、乗船客のニーズを丁寧に掘り起こすことが重要であり、初めての利用者や学生、外国人旅行者にも参加しやすい環境づくりが求められると思います
7. 社会的意義に関しては、関係人口の創出や国際交流があると考えます。短時間であるが、寄港地で観光したことは思い出となり、定住や応援消費に繋がると考える。また、船内や台湾での国際交流は乗船客にとっては貴重な経験になると考える。クルーズ振興の在り方としては、クルーズの情報を縁のない人にも発信できるような仕組みの整備や、事前にオンライン講座や動画で学べるコンテンツを作成することが必要だと考える。
8. クルーズの社会的意義は、観光を通じて人の移動と交流を生み出し、地域経済や国際理解の促進に寄与する点にあると感じた。クルーズは移動・宿泊・娯楽を一体で提供するため、幅広い層が参加しやすく、観光の裾野を広げる役割を果たしている。今後のクルーズ振興においては、乗船客の多様なニーズを丁寧に掘り起こし、年齢層や関心に応じた体験や情報発信を行うことが重要であると考えます。そのためには、船社・自治体・地域が連携し、利用者目線に立った企画や環境整備を進めていくことが求められる。
9. クルーズは観光振興にとどまらず、地域経済の活性化や文化交流、港湾都市の国際的価値向上に寄与する。復興にあたっては、安全・環境配慮を前提に、地域住民との共存や持続可能な運航体制を整え、質を重視した観光へ転換することが重要であると考えられる。今後の課題である
10. クルーズは移動・宿泊・観光を一体で提供し、幅広い層に安全で快適な旅行機会を与える社会的意義を持つ。また、寄港地との交流を通じ地域理解を深める役割も果たす。今後は年齢層や嗜好に応じた体験型プログラムを充実させ、潜在的な乗船客ニーズを丁寧に掘り起こす振興が求められる。

- 11.クルーズは観光の枠を超え、異文化理解や国際交流を促進する社会的意義を持つものである。多国籍の乗客やクルーと同じ空間で生活することで、日常では得られない価値観や文化に触れる機会が生まれる。また、地方港湾への寄港は観光客の分散を促し、都市部への集中を緩和する役割も果たす。今後のクルーズ振興においては、富裕層向けという固定的なイメージを払拭し、若年層や初参加者が参加しやすい情報発信や体験設計を行うことが重要であると考えられる。
- 12.クルーズは一度に多くの地域を回れる点で、観光の新しい形として社会的意義が大きいと感じた。今後クルーズを広めるには、若者向けの価格設定など乗船客のニーズを細かく分析することが必要だと感じた。年齢や目的に合わせたプランを充実させることで、クルーズがより身近で魅力的な旅行手段になると感じた。
- 13.クルーズは移動と滞在、観光を一体的に体験できる点に社会的意義があり、世代や国籍を超えた交流を生み出す観光形態であると感じた。学生の立場から見ると、クルーズは高齢者向けや富裕層向けというイメージが強く、参加のハードルが高いと捉えられがちである。しかし、実際に乗船してみると、エンターテインメントや交流型イベントなど、若年層にとっても魅力的な要素が多く存在していることに気付いた。今後のクルーズ振興においては、価格や服装、過ごし方に関する不安を軽減する情報発信を行い、学生や若年層のニーズを掘り起こしていくことが重要である。また、学びや交流と結び付けたプログラムを充実させることで、クルーズの社会的価値はさらに高まると考える。
- 14.クルーズは移動と滞在を同時に楽しめる新しい観光形態として社会的意義がある。多様な世代のニーズを掘り起こすため、体験型観光や地域交流を重視したクルーズ振興が必要だと考える。安心して参加できる環境づくりも重要だと感じた。
- 15.クルーズは観光消費の拡大や地域間交流を促進する点で社会的意義が大きいと感じる。今後のクルーズ復興においては、安全性の確保と地域との共存が重要となる。また、乗船客の多様なニーズを把握し、移動手段や寄港地での過ごし方まで含めたサービスを充実させることで、持続的なクルーズ産業の発展につながると考える。
- 16."クルーズの最大の意義は、移動という不自由の多い時間を、自分の意志で選択し自由に過ごせるという点にあると思う。飛行機や電車のような窮屈な移動ではなく、寝ていても、遊んでいても目的地に着くというスタイル

は、多忙な現代において非常に価値がある。今後の振興においては、この時間の使い方の自由を、我々のような若い世代にも訴求すべきだ。豪華さだけを強調するのではなく、移動中に自分の好きなことに没頭できる効率の良さやライフスタイルに合わせた旅の選択肢として提案することが、新たなニーズの掘り起こしに繋がると考える。"

- 17.クルーズは観光振興だけでなく、地域を世界に知ってもらうきっかけを生む点で社会的意義があると感じた。一方で、乗客のニーズを十分に把握せずに受け入れを進めても、地域との接点は生まれにくい。今後のクルーズ振興においては、移動の利便性や多言語対応、短時間でも満足できる体験の提供など、乗船客の視点に立った受け入れ環境を整えることが重要である。

クルーズ全般への感想

(外国人他との出会い、英語の必要性、失敗談なども)、将来への期待、上記の項目に該当しなかった部分への感想

1. 仕事柄、普段は英語を使う場面はなく外国人とコミュニケーションを取ることもないため、外国客船で外国人クルーと接する機会は貴重であり、学びの多い体験であった。初めての乗船で特にコミュニケーションの面で戸惑う場面もあったが、それも含めて良い思い出となった。機会があればさらに多くの寄港地を巡るクルーズにも挑戦したいと感じており、今回の経験が新たな旅行スタイルへの興味を広げてくれた。
2. 今回は英語をあまり使わなかった。他の船に乗った方が使うのでそんなに苦勞しなかったように感じる。とはいえ、英語を話したり、今回台湾に行ったからもう少し中国語を頑張ってみようと思った。
3. 自治体の人と一緒にパーティーに行って踊ってダンサーさんと写真を撮った。今回日本発着の船だったので、ほとんど英語を使う機会がなく、英語に自信がない日本人でも気軽に乗れるなと感じた。寄港地が多いクルーズ船だと船のアクティビティをやる時間があまりないと感じたので、寄港地にいる時間も考えながら行動しなければいけないと思った。クルーズ船はゆったりバカンスを楽しむものと思っている人が多いが、実際乗ってみたら船内外でやりたいことが多すぎて休まるときがないなと改めて思った。また、乗る時期の違いでプールサイドでのパーティーを屋内で行うことになったり、風が強くてアクティビティができないことがあったりして前回よりは楽しさが半減

してしまったなと感じた。

4. 今回のクルーズは、単なる旅行として楽しむだけのものではなく、スマートクルーズアカデミーの企画や各寄港地に関する説明を通して、クルーズと地域港湾との関わりについて多角的に学ぶことのできる、非常に充実した時間であった。クルーズが観光としての魅力を持つだけでなく、港湾整備、地域経済の活性化、自治体や民間企業との連携など、さまざまな要素によって成り立っていることを具体的に理解することができた。特に印象的だったのは、実際にクルーズに関わっている方々から直接お話を伺う機会があったことである。自治体関係者、観光に携わる方など、立場の異なる人々の視点に触れることで、これまで自分が一面的にしか捉えられていなかったクルーズの価値や可能性について、より立体的に考えることができるようになった。この経験は、自分の知見を広げるだけでなく、物事を多角的に捉える重要性を強く実感するきっかけとなったと考える。また今回のクルーズを通して、自分自身のこれまでの将来観についても深く考えさせられた。振り返ってみると、自分は無意識のうちに「今の自分にできそうなこと」や「手の届く範囲」に将来の選択肢を限定して考えていたことに気づいた。しかし、実際に多様な分野で活躍する方々の話を聞く中で、自分のやりたいことや理想とする姿を基準に考え、そのために必要な努力を積み重ねていくという選択肢があることを強く意識するようになった。今回の経験を通じて、将来の可能性を狭めるのではなく、自らの行動や努力によってその範囲を広げていく姿勢の大切さを学んだ。今後は、自分の目標から逆算して行動し、視野を広く持ちながら挑戦を続けていきたいと考えている。このクルーズは、知識や経験を得るだけでなく、自分の価値観や将来への向き合い方を見直す大きな転機となった。
5. 今回の旅では、船長や乗組員の方々と直接お会いする機会はなく、船内での安全訓練を見学しただけだったので、コメントはできませんが、船長とのパーティーに出席できたことを大変嬉しく思いました。しかし、クルーズ船のような国際的な環境では、英語が不可欠であることは言うまでもありません。乗船した途端、英語が通じない特別な国に旅行しているという感覚は薄れ、むしろ船上で様々な文化を持つ人々と交流し、英語だけが彼らを繋ぐ唯一の手段だと感じました。
6. 外国客船でのクルーズでは、外国人クルーとの交流を通じて、英語を使う場面が多くあると感じます。英語を話せる留学生である私にとっては案内や会話が比較的スムーズですが、実際には多言語対応が整っており、英語が

得意でない人でも安心して参加できます。今後もこうした多言語サポートを活かし、さらに多様な国籍の乗船客が快適に過ごせるクルーズになることを期待します。

7. 全体の感想としては大満足である。毎日が充実していて、暇な時間もなく常に新しい景色を見ることが出来る冒険のような感覚を味わえて満足した旅である。英語の必要性はとても感じた。船内は英語を頻繁に使うので話せた方がいいが、単語や基礎的な文章でも伝わるのがわかった。しかし、感情や表情など言語を使わなくても交流はできた。初めてクルーズに乗ってみて、自分の時間が好きな人や、タイトなスケジュールが好きな人、どのような人も楽しめる旅行であると感じたので、クルーズ船の受入を色んな港湾にしてほしいという期待がある。
8. クルーズ全般を通して、外国客船である MSC ベリッシマに乗船し、多国籍な外国人クルーと接する機会を得られたことは非常に印象的であった。英語での簡単なやり取りが必要な場面も多く、語学力の重要性を実感する経験となった。一方で、うまく伝えられず戸惑った場面もあり、自身の課題を認識するきっかけにもなった。船内では国籍や年齢を超えた交流が自然に生まれ、日常生活では得難い価値ある体験ができたと感じている。将来的には、より多様な人々と円滑に交流できるよう語学力を高め、再びクルーズに参加したいと考えている。また、海上で過ごす時間そのものが心に余裕をもたらし、移動を含めて楽しむ旅行形態として強い魅力を感じた。
9. クルーズは、移動そのものが非日常の体験となり、海を通して世界とつながれる魅力があると感じた。将来は、環境や地域に配慮した持続可能な形で、多様な人が安心して楽しめる観光として発展していくことを期待したい。
10. 言語を超えて繋がるということを身をもって経験できた。パーティーやショーで、初めましての外国人の方と心をひとつにして楽しめたことが貴重であり、かけがえのない思い出となった。英語がわかる、話せるようになればもっと心を通わせることができて楽しいだろうと感じた。今回は一回目の参加だったため不安や緊張、わからないことだらけだったが、もし次行く機会があれば今回の経験を活かしてもっと充実した旅が送れるだろうと感じた。
11. 今回のクルーズを通じて、外国客船ならではの文化や価値観に触れる貴重な経験ができた。日本語が通じないクルーもいたため、英語の必要性を強く実感したが、その分、自分から伝えようとする姿勢が自然と身についた点は大きな学びであった。友人同士の会話にも英語が混ざるようになり、言語が交流のきっかけになることの面白さを感じた。初めは不安も多かった

が、結果として忘れられない経験となり、今後は海外旅行や国際的な場面にも積極的に挑戦したいと考えるようになった。本クルーズは、自身の視野を広げる大きな転機となった。

12. 今回のクルーズでは外国客船だったこともあり、外国人クルーと英語でやりとりする場面が多く、最初は緊張したがいい経験となった。英語をもっと話せたら楽しさが広がっただろうと感じ、語学の大切さを実感した。
船内生活や寄港地を巡り、視野が広がり、将来にまたもう一度クルーズ船に乗りたい。
13. 外国客船でのクルーズでは、レストランを中心に外国人クルーと直接会話する機会が多くあった。注文など定型的な内容については伝えることができたが、想定外の状況が生じた際には十分に意思疎通ができず、実践的な英会話力の必要性を強く感じた。ショー後の撮影会においても、英語で会話ができていれば、出演者やクルーとの交流をより深めることができたのではないかと感じている。また、英語で自分の意思を明確に伝えられないことで、十分に対等なコミュニケーションが取れていないと感じる場面もあった。今回の経験を通して、語学力は単なる手段ではなく、自信を持って行動するための基盤であると実感した。今後は英語力を高め、国籍や立場に関わらず堂々と交流できるようになりたいと考えている。
14. 船内でのコミュニケーションで英語の必要性を感じた。また、クルーズ船に乗ってる自分と年代の違う方とお話をさせていただく機会もあったが、同年代の人以外と話す機会も自分にとって物凄く勉強になることが多く、大事な機会だとクルーズ船を通して感じる事が出来た。また、機会があればクルーズ船に乗りたいと思える船旅だった。
15. クルーズ全般を通して、非日常的な体験ができる点に大きな魅力を感じる。外国客船である MSC では外国人クルーと接する機会が多く、英語でうまく意思疎通ができず戸惑う場面もある。一方で、身振り手振りで助けてもらった経験は印象に残っている。今回の経験を通じて、今後は語学力を高め、より主体的に交流したいと感じている。
16. 今回の実習を通して強く感じたのは、クルーズを心から楽しむためには能動的に学ぼうとする姿勢と、体力が大切だということだ。船内には多くの選択肢が用意されているが、自分から情報を探したり、英語でコミュニケーションを取ろうとしたりしなければ、その魅力を十分に味わうことはできない。受け身のままで、時間だけが過ぎてしまうのだと実感した。また、日常を

丁寧に過ごすからこそ、非日常の体験がより印象深いものになるのだと感じた。普段の学業や生活に真摯に向き合っているからこそ、船上での開放感や特別さをより深く味わうことができる。この経験を今後の糧とし、まずは目の前の大学生活を大切にしながら、次の機会を楽しみに待ちたい。

17. 外国客船で、携帯電話が使用できない状態で外国人クルーと会話するということについては、不安なことが多かったが、案外、伝えたいことをシンプルにジェスチャーも加えて話していれば通じたのでよかった。ただ、ちょっとした要望など、英語が堪能であれば、お願いできたところを、少し躊躇してしまいうこともあったので、英語をもう少し話せる状態で次回は挑みたいと感じた。今回のクルーズ体験では、さまざまな人との出会いがあり、体験したことのないことがばかりで、非常に刺激的な毎日で、とてもいい社会経験となった。貴重な経験ができた。

* * *